

2025年11月13日

各位

ジブラルタ生命保険株式会社

家族愛に関する調査 2025

～自身の家族愛を 100 点満点で評価すると？ 全体平均は 77.7 点～

1 位「山梨県」82.1 点、2 位「兵庫県」82.0 点、3 位「栃木県」81.3 点

ジブラルタ生命保険株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長 兼 CEO：蕪木 広義）は、20歳～69歳の既婚（事実婚含む）男女4,700名（男性2,350名 女性2,350名）を対象に、「家族愛に関する調査2025」をインターネットリサーチで実施し、集計結果を公開しました。（調査協力会社：ネットエイジア株式会社）

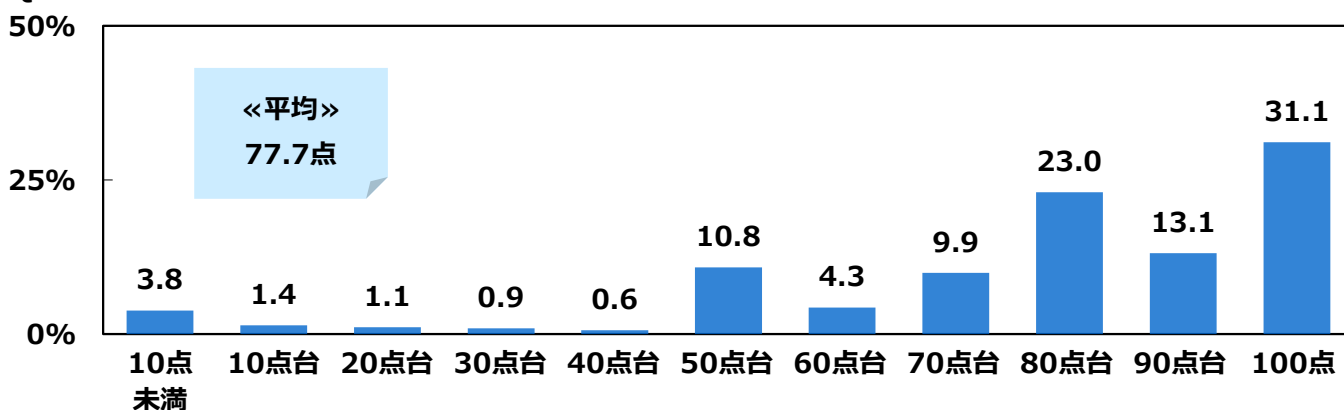
◆自身の家族愛を 100 点満点で評価すると？ 全体平均は 77.7 点

1 位「山梨県」82.1 点、2 位「兵庫県」82.0 点、3 位「栃木県」81.3 点、最下位は「宮城県」70.6 点

自身の家族愛の点数を100点満点（0点：最低～100点：最高）で評価すると何点が聞くと、「100点」に最も多くの回答が集まり、平均は77.7点でした。

都道府県別にみると、平均は 1 位が「山梨県」（82.1 点）、2 位が「兵庫県」（82.0 点）、3 位が「栃木県」（81.3 点）、4 位が「京都府」と「沖縄県」（いずれも 81.1 点） でした。最下位は「宮城県」（70.6 点） でした。

Q. 自身の家族愛の点数を100点満点（0点：最低～100点：最高）で評価すると何点？



自身の家族愛の点数（平均点）

1位	山梨県	82.1点	4位	京都府	81.1点
				沖縄県	81.1点
				：	：
2位	兵庫県	82.0点	43位	滋賀県	74.7点
			44位	新潟県	74.6点
			45位	三重県	74.4点
3位	栃木県	81.3点	46位	福井県	72.1点
			47位	宮城県	70.6点

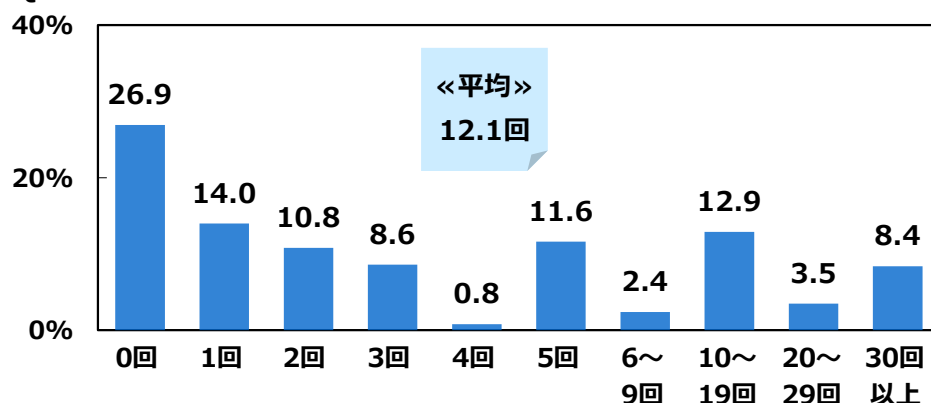
◆今年起きた夫婦喧嘩・パートナーとの喧嘩の回数 平均は 12.1 回

今年、夫婦喧嘩・パートナーとの喧嘩を何回くらいしたか聞くと、「0回」に最も多くの回答が集まりました。また、「1回」や「2回」、「5回」、「10～19回」にも回答がみられ、平均は12.1回でした。

都道府県別にみると、喧嘩をした回数の平均は、奈良県（21.1 回）が最も多くなり、大阪府（19.6 回）、茨城県（18.1 回）、宮崎県（17.9 回）、鹿児島県（17.5 回）が続きました。

Q. 今年、夫婦喧嘩・パートナーとの喧嘩を何回くらいした？

喧嘩の回数（平均回数）



1位	奈良県	21.1回
2位	大阪府	19.6回
3位	茨城県	18.1回
4位	宮崎県	17.9回
5位	鹿児島県	17.5回



◆家族愛が強いと思うスポーツ選手 TOP3

男性選手「大谷翔平さん」「イチローさん」「長友佑都さん」、女性選手「浜口京子さん」「北斗晶さん」「谷亮子さん」

“家族愛が強い”というイメージに合うスポーツ選手を聞くと、男性スポーツ選手では「大谷翔平さん」がダントツとなり、2位「イチローさん」、3位「長友佑都さん」と続きました。女性スポーツ選手では1位「浜口京子さん」、2位「北斗晶さん」、3位「谷亮子さん」となりました。

Q. 家族愛が強いと思うスポーツ選手は？

男性スポーツ選手			女性スポーツ選手		
1位	大谷翔平	742名	1位	浜口京子	141名
2位	イチロー	148名	2位	北斗晶	126名
3位	長友佑都	116名	3位	谷亮子	97名
4位	佐々木健介	42名	4位	澤穂希	78名
5位	ダルビッシュ有	22名	5位	田中（大谷）真美子	69名

調査結果 index

◆家族観について

……p.5

- ・自分にとって“家族”とは？ 4年連続1位は「心の支えになる存在」

◆家族関係について

……p.6～25

- ・夫婦・パートナータイプは？ 最多は“同居人タイプ”！ 20代では4人に1人が“恋人タイプ”
福島県、静岡県、大分県では「戦友タイプ」が1位
- ・配偶者・パートナーとの休日の過ごし方 「一緒に行動することが多い」が71%
同居人タイプと上司・部下タイプでは「別々に行動することが多い」が多数派に
- ・配偶者・パートナーからの希望の呼ばれ方 女性では「名前の呼び捨て」「名前+ちゃん・さん」がTOP2
- ・子どもからの呼ばれ方 男性では「パパ」38%、「おとうさん」28%、女性では「ママ」42%、「おかあさん」29%
- ・家族では誰の意見が優先されることが多い？
夫婦・パートナー間で意見が食い違った場合 「妻・女性パートナー」が多数派、
親子間で意見が食い違った場合 「親」「子ども」で拮抗する結果に
- ・「家族に対する隠し事がある」20%
家族に隠していること 男性1位は「自身の過去のこと」、女性1位は「家計のこと」
- ・自身の家族を表す色 1位「オレンジ」、理由は「温もり・暖かみがある」や「明るい」など
- ・これまでに“家族がいて良かった”と感じたとき 「家族で団らんしているとき」が半数以上
- ・配偶者・パートナーに対して“イライラ”すること TOP3
男性では「愚痴が多い」「電気・水を無駄遣いする」「スマホばかり見ている」「お金の無駄遣いをする」
女性では「スマホばかり見ている」「イビキがうるさい」「電気・水を無駄遣いする」
- ・“家族に言いたい”“家族から言われたい”“家族から言われて感動した”セリフ すべてで「ありがとう」がダントツ
- ・義理の家族との仲は？ 富山県では「非常に仲が良くない」が1割に
- ・対話型AIの活用実態
「家族の代わりに対話型AIと会話し寂しさを埋めることがある」14%、
「家族に関する悩みに対話型AIに相談することがある」15%、
「家族に相談しにくい悩みに対話型AIに相談することがある」16%、
「対話型AIを家族の一員と覚えることがある」12%、
いずれの項目でも20代では20%以上が経験あり

◆家族愛について

……p.26～27

- ・自身の家族愛に対して100点満点での評価 全体平均は77.7点
自己評価が高い都道府県は？ 1位「山梨県」、2位「兵庫県」、3位「栃木県」

◆家族間のコミュニケーションについて

……p.28～34

- ・家族間でのLINE【家族のグループLINE】【子どもとのLINE】では「東京都」が最多、
【配偶者・パートナーとのLINE】では「神奈川県」が1位
- ・今年、配偶者・パートナーに“愛の言葉”を伝えた回数 平均は26.3回、恋人タイプでは79.1回
都道府県別では「神奈川県」がトップ
- ・配偶者・パートナーに“ありがとう”と言っている回数 平均は5.5回/日
1位「和歌山県」8.7回、2位「北海道」8.5回、3位「鹿児島県」8.0回
- ・今年起きた夫婦喧嘩・パートナーとの喧嘩の回数 平均は12.1回、上司・部下タイプでは25.3回
- ・配偶者・パートナーに“ごめんね”と言っている回数 平均は6.0回/月、1位は鹿児島県で10.1回/月

◆選択的夫婦別姓制度について

……p.35～38

- ・選択的夫婦別姓制度の導入に対する考え「賛成」は男性22%、女性32%「反対」は男性30%、女性20%
- ・選択的夫婦別姓制度が導入されたら？「夫婦で別々の名字にしたい」は男性11%、女性16%
- ・夫婦が別々の名字になったら？
「夫婦の関係性に影響があると思う」23%、「親子の関係性に影響があると思う」34%

◆生まれ変わりについて

……p.39～41

- ・「生まれ変わっても同じ親元に生まれたい」64%
- ・「生まれ変わっても今の配偶者・パートナーを選びたい」男性の67%、女性の61%

◆“家族愛”とエンタメ

……p.42～46

- ・家族愛が強いと思う芸能人「杉浦太陽さん」「辻希美さん」夫妻がそろって1位に
- ・家族愛が強いと思うスポーツ選手TOP3
男性選手「大谷翔平さん」「イチローさん」「長友佑都さん」、女性選手「浜口京子さん」「北斗晶さん」「谷亮子さん」
- ・家族愛を感じる映画 1位「ALWAYS 三丁目の夕日」、2位「ホーム・アローン」「男はつらいよ」
30代以下では「リメンバー・ミー」がTOP3にランクイン
- ・家族愛を感じるドラマ「ひとつ屋根の下」がダントツ、「あんぱん」が3位に
- ・家族愛を感じるアニメ 1位「サザエさん」、2位「鬼滅の刃」、3位「クレヨンしんちゃん」
60代では「となりのトトロ」が3位



本ニュースリリースの内容の転載にあたりましては、
「ジブラルタ生命調べ」と付記のうえご使用いただきますよう、お願い申し上げます。

■本リリースに関するお問い合わせ先

ジブラルタ生命保険株式会社 広報チーム 【Tel】 03-5501-6563

アンケート調査結果

◆家族観について

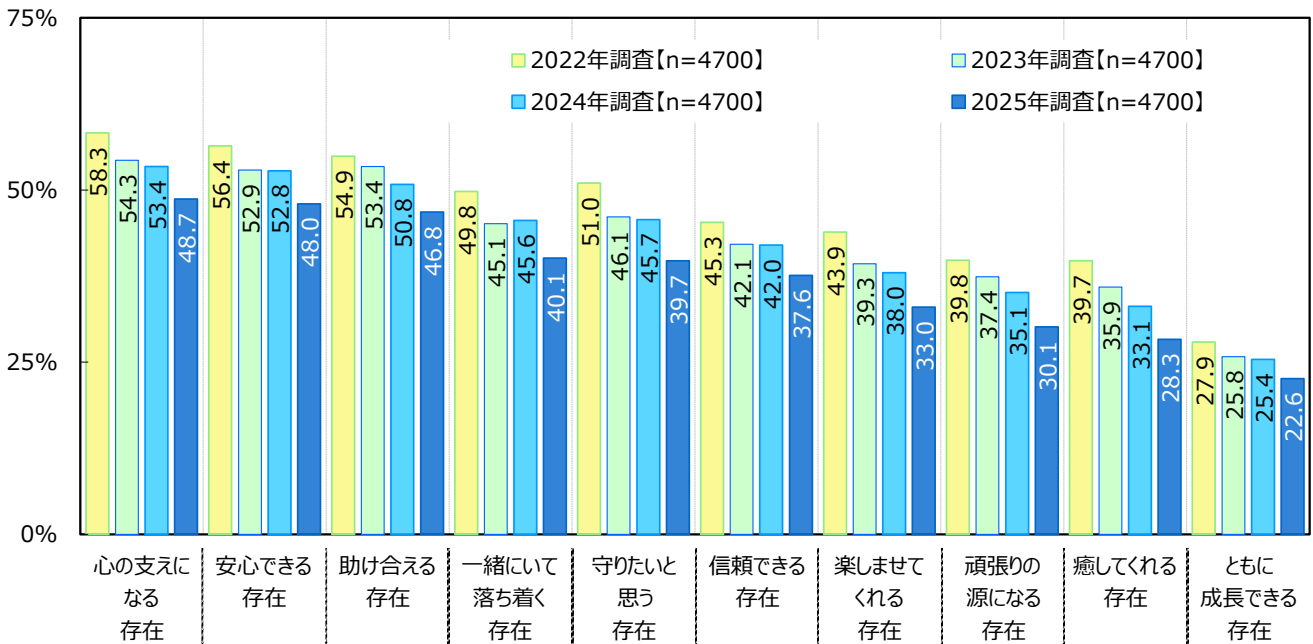
・自分にとって“家族”とは？ 4年連続 1位は「心の支えになる存在」

全国の20歳～69歳の既婚（事実婚含む）男女4,700名（全回答者）に対し、家族観について質問しました。

全回答者（4,700名）に、自分にとって“家族”とはどのような存在か聞いたところ、「心の支えになる存在」（48.7%）が最も高くなり、「安心できる存在」（48.0%）、「助け合える存在」（46.8%）、「一緒にいて落ち着く存在」（40.1%）、「守りたいと思う存在」（39.7%）が続きました。

過去の調査結果と比較すると、「心の支えになる存在」は4年連続1位（2022年58.3%、2023年54.3%、2024年53.4%、2025年48.7%）となりました。一方で、上位10位の項目においては、すべての項目で下降する傾向がみられました。

◆自分にとって“家族”とはどのような存在か（複数回答形式） ※上位10位までを表示



※2022年調査：『家族愛に関する調査 2022』（2022年12月14日発表）

https://www.gib-life.co.jp/st/about/is_pdf/20221214.pdf

※2023年調査：『家族愛に関する調査 2023』（2023年11月20日発表）

https://www.gib-life.co.jp/st/about/is_pdf/20231120.pdf

※2024年調査：『家族愛に関する調査 2024』（2024年11月21日発表）

https://www.gib-life.co.jp/st/about/is_pdf/2024112101.pdf

◆家族関係について

◆夫婦・パートナータイプは？ 最多は“同居人タイプ”！ 20代では4人に1人が“恋人タイプ”

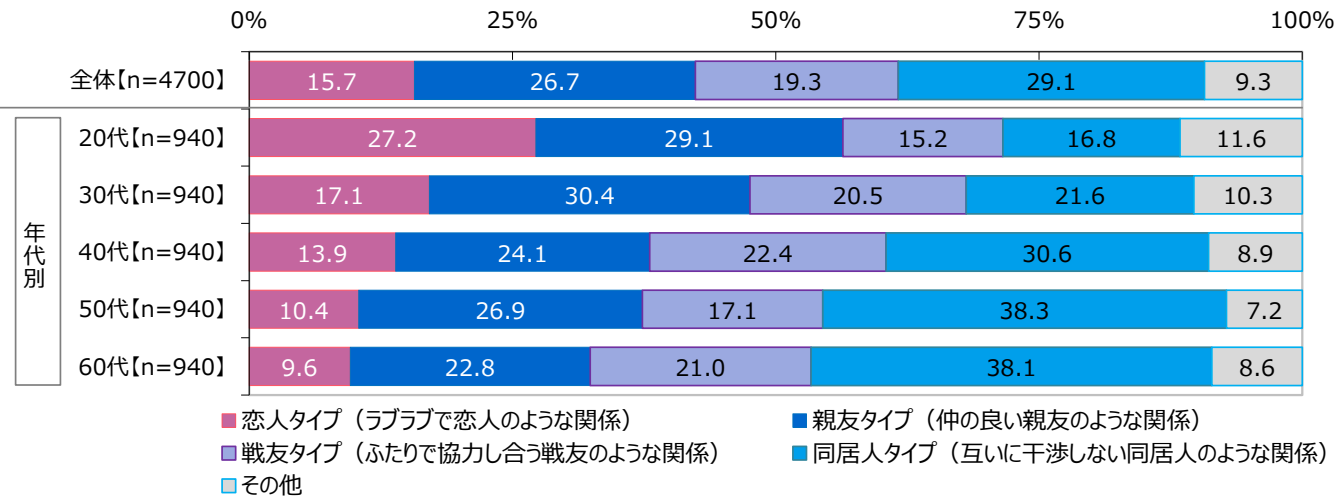
福島県、静岡県、大分県では「戦友タイプ」が1位

家族間の関係性について質問しました。

全回答者（4,700名）に、自身と配偶者・パートナーはどの夫婦・パートナータイプに最も近いと思うか聞いたところ、最も多かったのは「同居人タイプ」（29.1%）、次いで「親友タイプ」（26.7%）、「戦友タイプ」（19.3%）、「恋人タイプ」（15.7%）となりました。

年代別にみると、「同居人タイプ」は高年層で高くなる傾向がみられ、50代以上（50代 38.3%、60代 38.1%）では4割に近くなりました。他方、「恋人タイプ」は年代が上がるにつれ低くなる傾向がみられ、最も高くなった20代（27.2%）と最も低くなった60代（9.6%）では17.6ポイントの差がみられました。「親友タイプ」は30代（30.4%）で最も高くなりました。ライフステージの変化によって夫婦・パートナー間の関係性が変わっていく様子がみられる結果となりました。

◆自身と配偶者・パートナーは、どの夫婦・パートナータイプに最も近いと思うか（単一回答形式）



都道府県別にみると、多くの都道府県で1位は「同居人タイプ」、「親友タイプ」のいずれかとなり、福島県、静岡県、大分県では「戦友タイプ」が1位（大分県は「同居人タイプ」と同率）となりました。

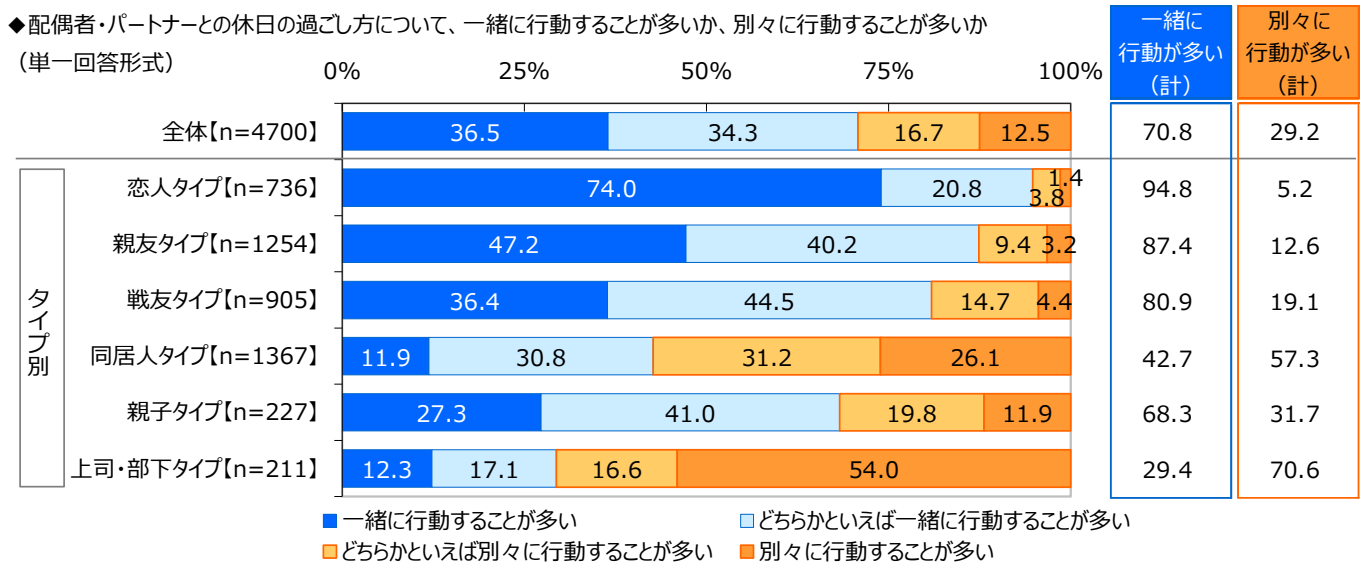
◆自身と配偶者・パートナーは、どの夫婦・パートナータイプに最も近いと思うか（単一回答形式） ※都道府県別の1位を表示
各都道府県【n=100】

北海道	同居人タイプ	富山県	同居人タイプ	島根県	親友タイプ
青森県	親友タイプ	石川県	親友タイプ	岡山県	親友タイプ
岩手県	同居人タイプ	福井県	同居人タイプ	広島県	同居人タイプ
宮城県	親友タイプ	山梨県	親友タイプ	山口県	同居人タイプ
秋田県	同居人タイプ	長野県	同居人タイプ	徳島県	同居人タイプ
山形県	同居人タイプ	岐阜県	親友タイプ	香川県	同居人タイプ
福島県	戦友タイプ	静岡県	戦友タイプ	愛媛県	同居人タイプ
茨城県	同居人タイプ	愛知県	同居人タイプ	高知県	同居人タイプ
栃木県	同居人タイプ	三重県	同居人タイプ	福岡県	親友タイプ
群馬県	同居人タイプ	滋賀県	同居人タイプ	佐賀県	同居人タイプ
埼玉県	親友タイプ	京都府	親友タイプ	長崎県	親友タイプ
千葉県	親友タイプ	大阪府	親友タイプ	熊本県	同居人タイプ
東京都	同居人タイプ	兵庫県	親友タイプ	大分県	戦友タイプ / 同居人タイプ
神奈川県	同居人タイプ	奈良県	親友タイプ	宮崎県	同居人タイプ
新潟県	同居人タイプ	和歌山県	親友タイプ	鹿児島県	親友タイプ
		鳥取県	同居人タイプ	沖縄県	同居人タイプ

・配偶者・パートナーとの休日の過ごし方「一緒に行動することが多い」が71%
同居人タイプと上司・部下タイプでは「別々に行動することが多い」が多数派に

次に、全回答者（4,700名）に、配偶者・パートナーとの休日の過ごし方について、一緒に行動することが多いか、別々に行動することが多いか聞いたところ、「一緒に行動することが多い」が36.5%、「どちらかといえば一緒に行動することが多い」が34.3%で、合計した『一緒に行動することが多い（計）』が70.8%、「別々に行動することが多い」が12.5%、「どちらかといえば別々に行動することが多い」が16.7%で、合計した『別々に行動することが多い（計）』が29.2%となり、一緒に行動する夫婦・パートナーが多数派となりました。

夫婦・パートナーのタイプ別にみると、恋人タイプでは『一緒に行動することが多い（計）』が94.8%となりました。また、同居人タイプと上司・部下タイプでは『別々に行動することが多い（計）』（同居人タイプ57.3%、上司・部下タイプ70.6%）が多数派となりました。



※親子タイプ＝妻が夫の母親、または夫が妻の父親といった親子のような関係 / 上司・部下タイプ＝上下関係がある上司・部下のような関係

都道府県別にみると、“一緒に行動”が最も高かったのは山梨県（85.0%）で、福岡県と鹿児島県（いずれも80.0%）が続きました。“別々に行動”が最も高かったのは三重県（40.0%）で、群馬県（38.0%）、福井県と和歌山県（いずれも36.0%）が続きました。

◆配偶者・パートナーとの休日の過ごし方（単一回答形式）※上位10位までを表示
各都道府県【n=100】

	一緒に行動	%		別々に行動	%
1位	山梨県	85.0	1位	三重県	40.0
2位	福岡県	80.0	2位	群馬県	38.0
	鹿児島県	80.0	3位	福井県	36.0
4位	兵庫県	79.0		和歌山県	36.0
	北海道	77.0	5位	新潟県	35.0
5位	大阪府	77.0			
	岡山県	77.0	6位	神奈川県 / 富山県 / 滋賀県 / 鳥取県	34.0
8位	山口県	75.0			
9位	青森県 / 千葉県 / 岐阜県 / 京都府	74.0	10位	栃木県 / 石川県 / 長野県 / 宮崎県	33.0

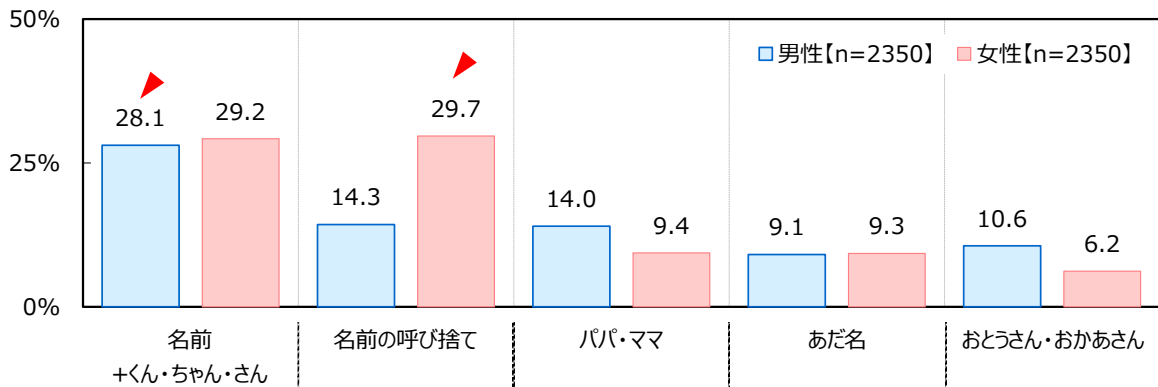
・配偶者・パートナーからの希望の呼ばれ方 女性では「名前の呼び捨て」「名前+ちゃん・さん」が TOP2

家族からの呼ばれ方について質問しました。

全回答者（4,700 名）に、希望する配偶者・パートナーからの呼ばれ方を聞いたところ、男性では「名前+くん・さん」（28.1%）が最も高くなり、「名前の呼び捨て」（14.3%）、「パパ」（14.0%）、「おとうさん」（10.6%）、「あだ名」（9.1%）が続きました。

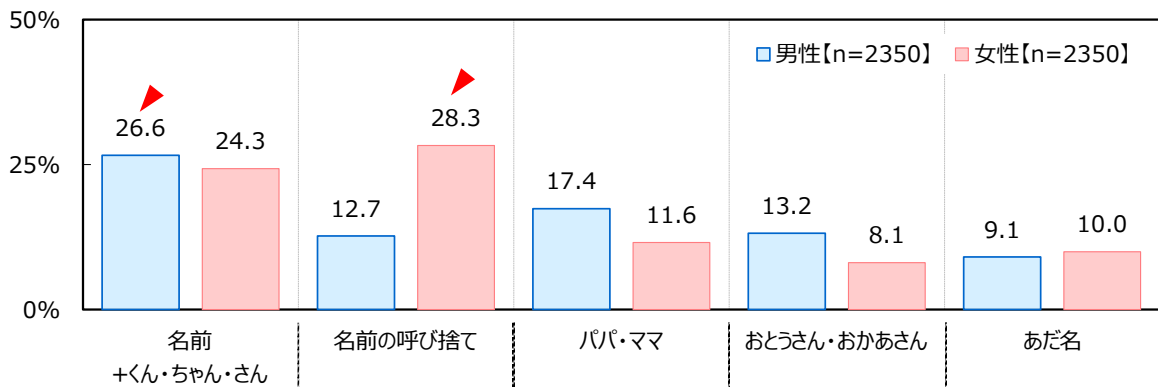
女性では「名前の呼び捨て」（29.7%）が最も高くなり、次いで「名前+ちゃん・さん」（29.2%）、「ママ」（9.4%）、「あだ名」（9.3%）、「おかあさん」（6.2%）となりました。

◆希望する配偶者・パートナーからの呼ばれ方 （単一回答形式） ※上位5位までを表示



また、実際にされている配偶者・パートナーからの呼ばれ方を聞いたところ、男性では「名前+くん・さん」（26.6%）、女性では「名前の呼び捨て」（28.3%）が最も高く、男性・女性ともに“希望の呼ばれ方”と“実際の呼ばれ方”の 1 位が同じとなりました。

◆実際にされている配偶者・パートナーからの呼ばれ方 （単一回答形式） ※上位5位までを表示



実際にされている配偶者・パートナーからの呼ばれ方を都道府県別にみると、男性では多くの都道府県で「名前+くん・さん」が1位となり、千葉県では「おとうさん」が「名前+くん・さん」「パパ」とともに1位、沖縄県では「名前の呼び捨て」が1位となりました。女性では多くの都道府県で「名前の呼び捨て」と「名前+ちゃん・さん」のいずれかが1位、岩手県では「ママ」が1位でした。

◆実際にされている配偶者・パートナーからの呼ばれ方（単一回答形式） ※都道府県別の1位を表示

男性・各都道府県【n=50】

	男性				
北海道	名前+くん・さん	富山県	名前+くん・さん / パパ	島根県	名前+くん・さん
青森県	パパ	石川県	名前+くん・さん	岡山県	名前+くん・さん
岩手県	パパ	福井県	その他	広島県	名前+くん・さん
宮城県	名前+くん・さん	山梨県	名前+くん・さん	山口県	名前+くん・さん
秋田県	名前+くん・さん / パパ	長野県	名前+くん・さん	徳島県	名前+くん・さん
山形県	パパ	岐阜県	名前+くん・さん	香川県	名前+くん・さん
福島県	パパ	静岡県	名前+くん・さん	愛媛県	名前+くん・さん
茨城県	名前+くん・さん / パパ	愛知県	名前+くん・さん	高知県	名前+くん・さん
栃木県	パパ	三重県	名前+くん・さん	福岡県	名前+くん・さん
群馬県	パパ	滋賀県	名前+くん・さん	佐賀県	名前+くん・さん
埼玉県	名前+くん・さん	京都府	名前+くん・さん	長崎県	名前+くん・さん
千葉県	名前+くん・さん / パパ / おとうさん	大阪府	名前+くん・さん	熊本県	名前+くん・さん
東京都	パパ	兵庫県	名前+くん・さん	大分県	名前+くん・さん
神奈川県	名前+くん・さん	奈良県	名前+くん・さん	宮崎県	名前+くん・さん
新潟県	名前+くん・さん	和歌山県	パパ	鹿児島県	名前+くん・さん
		鳥取県	名前+くん・さん	沖縄県	名前の呼び捨て

女性・各都道府県【n=50】

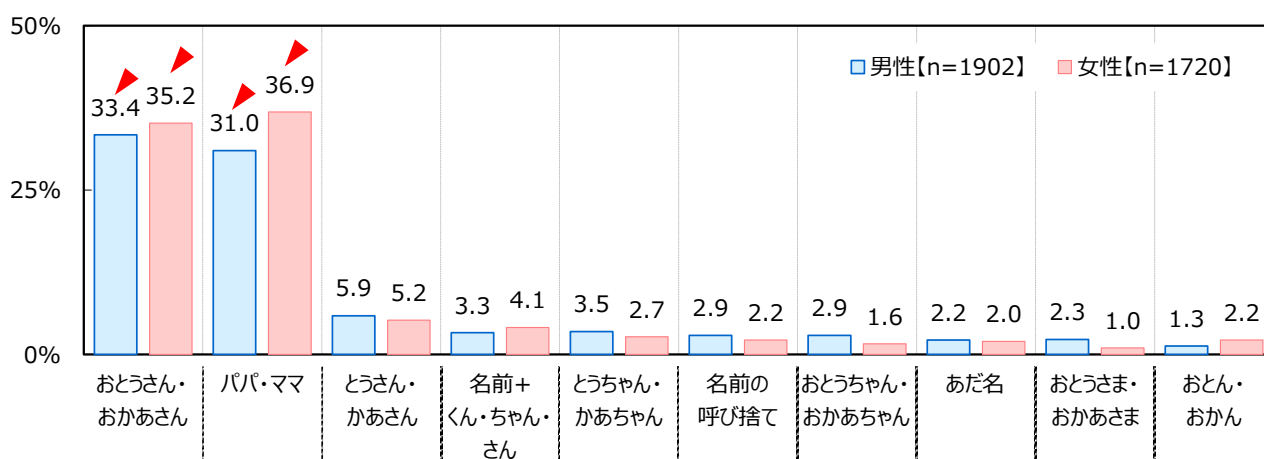
	女性				
北海道	名前の呼び捨て	富山県	名前の呼び捨て	島根県	名前+ちゃん・さん
青森県	名前の呼び捨て	石川県	名前の呼び捨て	岡山県	名前+ちゃん・さん
岩手県	ママ	福井県	名前の呼び捨て	広島県	名前+ちゃん・さん
宮城県	名前+ちゃん・さん	山梨県	名前+ちゃん・さん	山口県	名前+ちゃん・さん
秋田県	名前の呼び捨て	長野県	名前の呼び捨て	徳島県	名前の呼び捨て / 名前+ちゃん・さん
山形県	名前の呼び捨て	岐阜県	名前の呼び捨て	香川県	名前+ちゃん・さん
福島県	名前の呼び捨て	静岡県	名前の呼び捨て	愛媛県	名前の呼び捨て
茨城県	名前の呼び捨て / 名前+ちゃん・さん	愛知県	名前の呼び捨て	高知県	名前の呼び捨て
栃木県	名前の呼び捨て	三重県	名前+ちゃん・さん	福岡県	名前の呼び捨て / 名前+ちゃん・さん
群馬県	名前+ちゃん・さん	滋賀県	名前の呼び捨て	佐賀県	名前の呼び捨て
埼玉県	名前の呼び捨て	京都府	名前の呼び捨て	長崎県	名前の呼び捨て
千葉県	名前の呼び捨て	大阪府	名前の呼び捨て	熊本県	名前+ちゃん・さん
東京都	名前+ちゃん・さん	兵庫県	名前の呼び捨て	大分県	名前の呼び捨て
神奈川県	名前の呼び捨て	奈良県	名前+ちゃん・さん	宮崎県	名前の呼び捨て
新潟県	名前+ちゃん・さん	和歌山県	名前の呼び捨て	鹿児島県	名前の呼び捨て
		鳥取県	名前+ちゃん・さん	沖縄県	名前の呼び捨て

・子どもからの呼ばれ方 男性では「パパ」38%、「おとうさん」28%、女性では「ママ」42%、「おかあさん」29%

次に、子どもがいる方（3,622 名）に、希望する子どもからの呼ばれ方を聞いたところ、男性では「おとうさん」（33.4%）、「パパ」（31.0%）が突出して高く、以降「とうさん」（5.9%）、「とうちゃん」（3.5%）、「名前+くん・さん」（3.3%）となりました。

女性では、「ママ」（36.9%）と「おかあさん」（35.2%）が突出して高くなり、「かあさん」（5.2%）、「名前+ちゃん・さん」（4.1%）、「かあちゃん」（2.7%）が続きました。

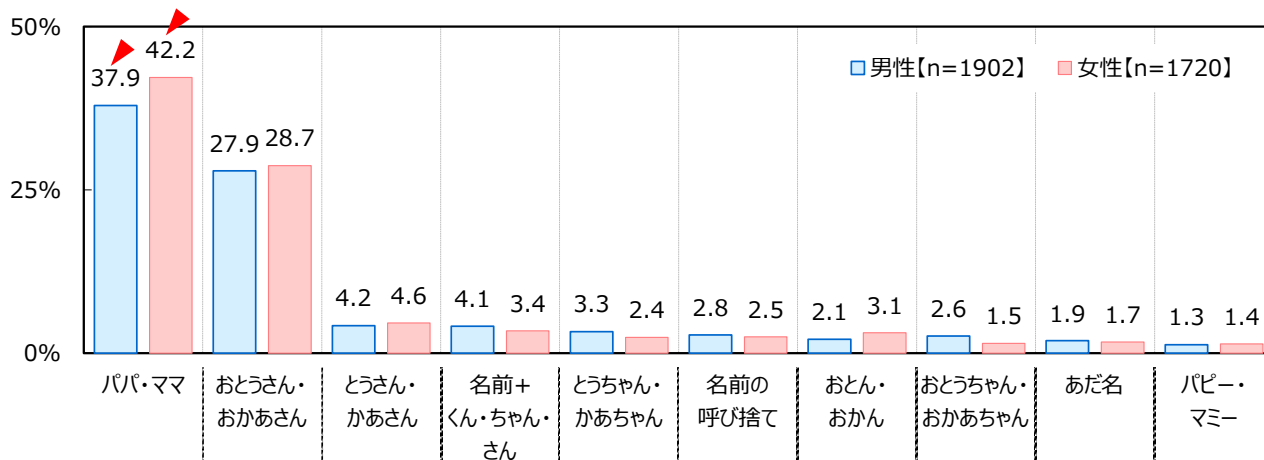
◆希望する子どもからの呼ばれ方 （単一回答形式） 対象：子どもがいる方 ※全体の上位10までを表示



また、実際にされている子どもからの呼ばれ方を聞いたところ、男性では「パパ」（37.9%）が最も高く、次いで「おとうさん」（27.9%）、「とうさん」（4.2%）、「名前+くん・さん」（4.1%）、「とうちゃん」（3.3%）となりました。

女性では「ママ」（42.2%）が突出して高くなり、「おかあさん」（28.7%）、「かあさん」（4.6%）、「名前+ちゃん・さん」（3.4%）、「おかん」（3.1%）が続きました。

◆実際にされている子どもからの呼ばれ方 （単一回答形式） 対象：子どもがいる方 ※全体の上位10位までを表示



実際にされている子どもからの呼ばれ方の TOP2 である「パパ・ママ」「おとうさん・おかあさん」について、それぞれ呼ばれている割合を都道府県別にみると、「パパ」が最も高くなったのは大分県（53.5%）で、宮城県（51.2%）、山形県（50.0%）が続く、「ママ」が最も高くなったのは熊本県（66.7%）で、長野県（57.9%）、群馬県（56.8%）が続きました。

また、「おとうさん」が最も高くなったのは沖縄県（46.2%）で、次いで大阪府（40.6%）、埼玉県（39.5%）、「おかあさん」が最も高くなったのは鹿児島県（50.0%）で、次いで鳥取県（47.4%）、宮崎県（43.2%）となりました。

◆実際にされている子どもからの呼ばれ方（単一回答形式）

※回答した人の割合が高い順に上位10位までを表示 対象：子どもがいる方

«パパ・ママ»

	男性	%		女性	%
1位	大分県	53.5	1位	熊本県	66.7
2位	宮城県	51.2	2位	長野県	57.9
3位	山形県	50.0	3位	群馬県	56.8
4位	福島県	48.9	4位	福島県	56.1
5位	長野県	48.6	5位	千葉県	54.1
6位	奈良県	47.4	6位	岩手県	53.8
7位	福岡県	46.7		大分県	53.8
8位	岐阜県	46.3	8位	埼玉県	53.1
9位	茨城県	45.9		山形県	52.8
10位	熊本県	45.5	9位	徳島県	52.8

◆実際にされている子どもからの呼ばれ方（単一回答形式）

※回答した人の割合が高い順に上位10位までを表示 対象：子どもがいる方

«おとうさん・おかあさん»

	男性	%		女性	%
1位	沖縄県	46.2	1位	鹿児島県	50.0
2位	大阪府	40.6	2位	鳥取県	47.4
3位	埼玉県	39.5	3位	宮崎県	43.2
4位	石川県	38.1	4位	島根県	42.1
5位	三重県	35.9	5位	岡山県	41.7
	鳥取県	35.9	6位	長崎県	41.5
7位	鹿児島県	35.6	7位	佐賀県	40.0
8位	千葉県	34.2	8位	岩手県	38.5
9位	熊本県	34.1	9位	奈良県	37.8
10位	佐賀県	33.3	10位	三重県	35.1

・家族では誰の意見が優先されることが多い？

夫婦・パートナー間で意見が食い違った場合「妻・女性パートナー」が多数派、
親子間で意見が食い違った場合「親」「子ども」で拮抗する結果に

家庭内で何かを決めるとき、誰の意見が優先されることが多いのでしょうか。

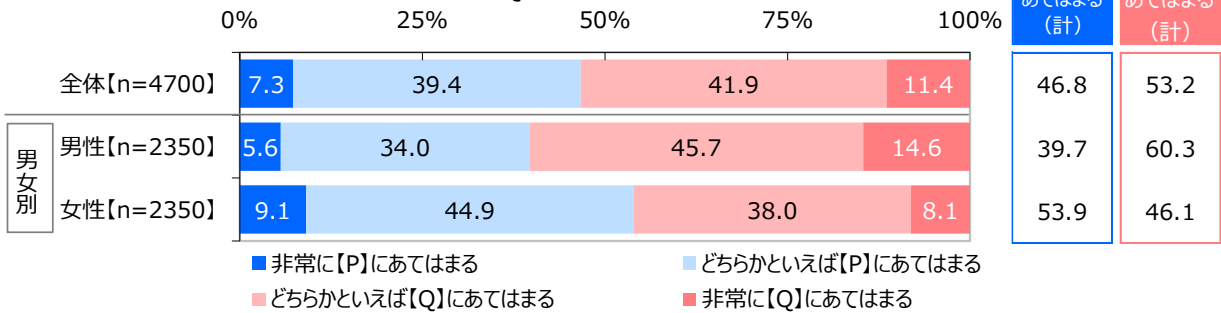
全回答者（4,700 名）に、夫婦・パートナー間で意見が食い違った場合、夫と妻のどちらの意見を尊重することが多いか聞いたところ、『夫・男性パートナーの意見を尊重することが多い』（【P】にあてはまる（計）：「非常に」と「どちらかといえば」の合計、以下同様）が 46.8%、『妻・女性パートナーの意見を尊重することが多い』（【Q】にあてはまる（計）：「非常に」と「どちらかといえば」の合計、以下同様）が 53.2%となり、妻・女性パートナーの意見を尊重している夫婦・パートナーが多数派となりました。

男女別にみると、男性では『妻・女性パートナーの意見を尊重することが多い』（60.3%）が 6 割を上回った一方、女性では『夫・男性パートナーの意見を尊重することが多い』（53.9%）が半数以上となりました。

◆家族間のパワーバランスについて、【P】と【Q】ではどちらにあてはまるか（単一回答形式）

≪夫婦・パートナー間で意見が食い違った場合…

【P】夫・男性パートナーの意見を尊重することが多い 【Q】妻・女性パートナーの意見を尊重することが多い≫



都道府県別にみると、多くの都道府県で「妻・女性パートナー」が多数派となり、神奈川県、山梨県、香川県では「両方（両者が同率）」となりました。

◆夫婦・パートナー間で意見が食い違った場合、夫・男性パートナーと妻・女性パートナーのどちらの意見を尊重することが多いか（単一回答形式） ※都道府県別の多数派を表示

各都道府県【n=100】

北海道	妻・女性パートナー	富山県	夫・男性パートナー	島根県	妻・女性パートナー
青森県	妻・女性パートナー	石川県	夫・男性パートナー	岡山県	夫・男性パートナー
岩手県	妻・女性パートナー	福井県	妻・女性パートナー	広島県	妻・女性パートナー
宮城県	夫・男性パートナー	山梨県	両方	山口県	妻・女性パートナー
秋田県	妻・女性パートナー	長野県	妻・女性パートナー	徳島県	夫・男性パートナー
山形県	夫・男性パートナー	岐阜県	妻・女性パートナー	香川県	両方
福島県	妻・女性パートナー	静岡県	妻・女性パートナー	愛媛県	夫・男性パートナー
茨城県	妻・女性パートナー	愛知県	妻・女性パートナー	高知県	妻・女性パートナー
栃木県	妻・女性パートナー	三重県	妻・女性パートナー	福岡県	妻・女性パートナー
群馬県	妻・女性パートナー	滋賀県	妻・女性パートナー	佐賀県	妻・女性パートナー
埼玉県	夫・男性パートナー	京都府	妻・女性パートナー	長崎県	夫・男性パートナー
千葉県	妻・女性パートナー	大阪府	妻・女性パートナー	熊本県	夫・男性パートナー
東京都	夫・男性パートナー	兵庫県	妻・女性パートナー	大分県	妻・女性パートナー
神奈川県	両方	奈良県	妻・女性パートナー	宮崎県	妻・女性パートナー
新潟県	妻・女性パートナー	和歌山県	妻・女性パートナー	鹿児島県	夫・男性パートナー
		鳥取県	妻・女性パートナー	沖縄県	夫・男性パートナー

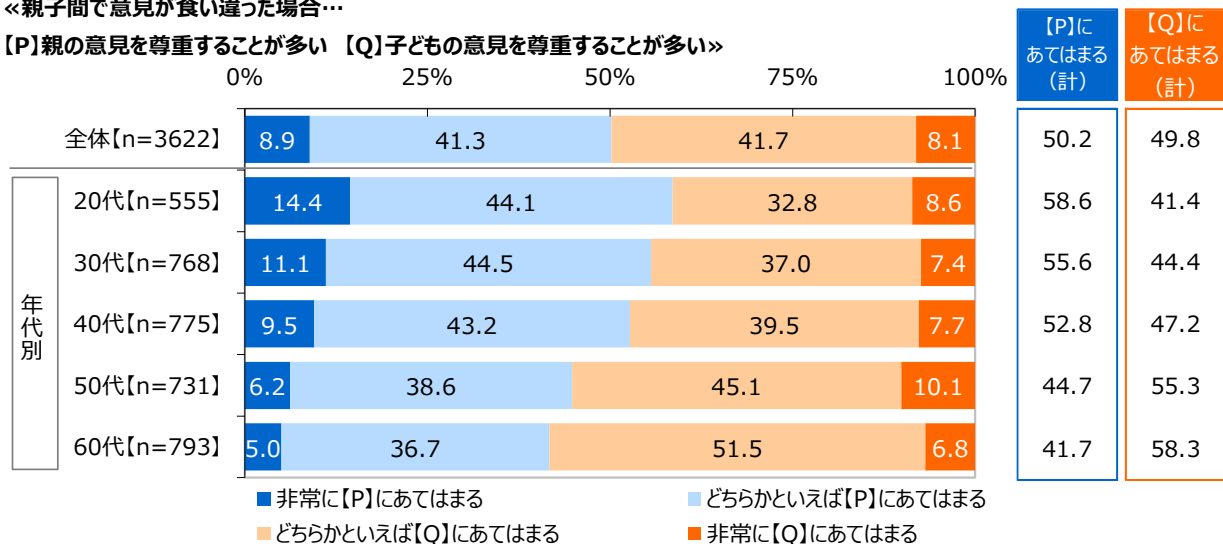
子どもがいる方（3,622 名）に、親子間で意見が食い違った場合、親と子どものどちらの意見を尊重することが多いか聞いたところ、『親の意見を尊重することが多い』が 50.2%、『子どもの意見を尊重することが多い』が 49.8%と、両者が拮抗しました。

年代別にみると、年代が上がるにつれ、『親の意見を尊重することが多い』が低くなり、『子どもの意見を尊重することが多い』が高くなる傾向がみられました。

◆家族間のパワーバランスについて、【P】と【Q】ではどちらにあてはまるか（単一回答形式） 対象：子どもがいる方

＜親子間で意見が食い違った場合＞

【P】親の意見を尊重することが多い 【Q】子どもの意見を尊重することが多い



都道府県別にみると、多くの都道府県で「親」と「子ども」のいずれかが多数派となった一方、大分県では「両方（両者が同率）」となりました。

◆親子間で意見が食い違った場合、親と子どものどちらの意見を尊重することが多いか（単一回答形式）

※都道府県別の多数派を表示

対象：子どもがいる方

北海道	親
青森県	親
岩手県	子ども
宮城県	親
秋田県	親
山形県	子ども
福島県	親
茨城県	親
栃木県	親
群馬県	子ども
埼玉県	親
千葉県	子ども
東京都	親
神奈川県	親
新潟県	子ども

富山県	親
石川県	親
福井県	親
山梨県	子ども
長野県	子ども
岐阜県	子ども
静岡県	子ども
愛知県	子ども
三重県	親
滋賀県	子ども
京都府	親
大阪府	親
兵庫県	親
奈良県	子ども
和歌山県	子ども
鳥取県	子ども

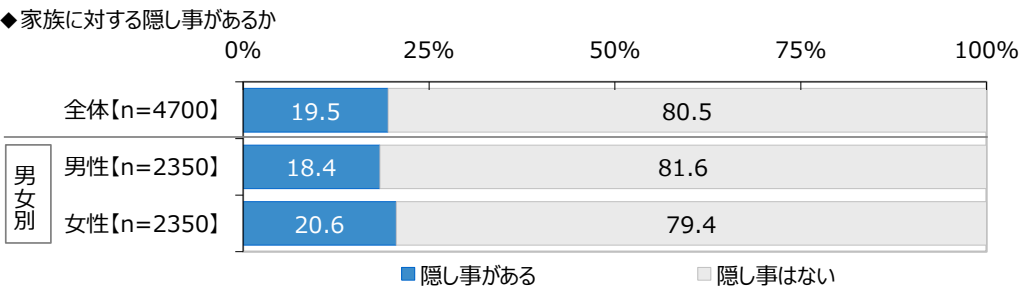
島根県	子ども
岡山県	子ども
広島県	親
山口県	親
徳島県	子ども
香川県	子ども
愛媛県	親
高知県	親
福岡県	親
佐賀県	親
長崎県	子ども
熊本県	子ども
大分県	両方
宮崎県	親
鹿児島県	親
沖縄県	親

・「家族に対する隠し事がある」20%

家族に隠していること 男性 1 位は「自身の過去のこと」、女性 1 位は「家計のこと」

家族への隠し事について質問しました。

全回答者（4,700 名）に、家族に対する隠し事があるか聞いたところ、「隠し事がある」は 19.5%、「隠し事はない」は 80.5%と、大多数が家族に隠し事はしていないことがわかりました。



家族に対する隠し事がある方（916 名）に、家族に隠していることを聞いたところ、1 位「自身の過去のこと」（35.0%）、2 位「家計のこと」（33.0%）、3 位「趣味のこと」（18.8%）、4 位「恋愛のこと」（10.5%）、5 位「仕事のこと」（9.8%）となりました。

男女別にみると、男性 1 位は「自身の過去のこと」（32.2%）、女性 1 位は「家計のこと」（37.8%）でした。

隠し事の内容をみると、男性 1 位の「自身の過去のこと」では「どんなことをしてきたか」や「とてもイキっていた」、女性 1 位の「家計のこと」では「秘密で物を買う」や「貯金を切り崩していること」といった回答が挙げられました。

◆ 家族に隠していること・隠し事の内容（複数回答形式・自由回答形式） ※上位10位までを表示
対象：家族に対する隠し事がある方

	全体【n=916】	%
1位	自身の過去のこと	35.0
2位	家計のこと	33.0
3位	趣味のこと	18.8
4位	恋愛のこと	10.5
5位	仕事のこと	9.8
6位	健康（病気）のこと	9.2
7位	親・義親のこと	6.9
8位	友人のこと	3.7
9位	子どものこと	3.6
10位	家事のこと	3.2

	男性【n=432】	%	隠し事の内容（抜粋）		女性【n=484】	%	隠し事の内容（抜粋）
1位	自身の過去のこと	32.2	どんなことをしてきたか（50代・静岡県） とてもイキっていた（20代・長野県）	1位	家計のこと	37.8	秘密で物を買う（40代・石川県） 貯金を切り崩していること（60代・大阪府）
2位	家計のこと	27.5	無駄遣いをしている（50代・兵庫県） 投資からの配当がある（20代・新潟県）	2位	自身の過去のこと	37.6	家族関係の悪さ（40代・沖縄県） 悪い遊びを沢山したこと（30代・沖縄県）
3位	趣味のこと	26.9	衣服を隠し持っている（30代・鳥取県）	3位	趣味のこと	11.6	占いをしていること（20代・秋田県）
4位	仕事のこと	13.7	忙しいふりをしている（30代・愛知県）	4位	恋愛のこと	11.2	別れようと思ったこと（20代・栃木県）
5位	恋愛のこと	9.7	異性との交際歴（30代・栃木県）	5位	健康（病気）のこと	8.9	精神的に病みやすい（20代・沖縄県）
6位	健康（病気）のこと	9.5	健康診断（40代・山口県）	6位	親・義親のこと	8.3	お金を貸していること（20代・福井県）
7位	親・義親のこと	5.3	行き来していること（60代・山梨県）	7位	仕事のこと	6.4	教えていない副業（60代・北海道）
8位	友人のこと	3.2	絶縁していること（30代・富山県）	8位	子どものこと	5.0	わざと怒ること（40代・宮崎県）
9位	子どものこと	2.1	内緒で食べ物をあげている（30代・石川県）	9位	家事のこと	4.5	手を抜いている（30代・栃木県）
10位	家事のこと	1.6	厳しい一面（40代・福岡県）	10位	友人のこと	4.1	友人がいないこと（40代・福井県）

・自身の家族を表す色 1位「オレンジ」、理由は「温もり・暖かみがある」や「明るい」など

全回答者（4,700 名）に、自身の家族の雰囲気を表すのに最もふさわしいと思う色を聞いたところ、1 位「オレンジ」（28.0%）、2 位「緑」（15.7%）、3 位「白」（13.0%）、4 位「青」（12.7%）、5 位「黄」（9.6%）となりました。

ふさわしいと思う理由をみると、「オレンジ」では「温もり・暖かみがある」や「明るい」、「緑」では「植物や自然のイメージ」や「落ち着く」、「白」では「これから何色にも染まれる」といった回答が主に挙げられました。

年代別にみると、50 代以下では 1 位は「オレンジ」（20 代 35.4%、30 代 32.9%、40 代 29.9%、50 代 21.2%）となり、60 代では 1 位は「緑」（23.3%）でした。また、20 代では「ピンク」（11.3%）が 3 位に挙がりました。

◆自身の家族の雰囲気を表すのに最もふさわしいと思う色・ふさわしいと思う理由 （単一回答形式・自由回答形式）
※全体は上位5位まで、年代別は各上位3位までを表示

	全体【n=4700】	%	主な理由
1位	オレンジ	28.0	温もり・暖かみがある / 明るい
2位	緑	15.7	植物や自然のイメージ / 落ち着く
3位	白	13.0	これから何色にも染まれる
4位	青	12.7	青空のような晴れやかなイメージ
5位	黄	9.6	明るい

	20代【n=940】	%		30代【n=940】	%
1位	オレンジ	35.4	1位	オレンジ	32.9
2位	白	12.2	2位	緑	13.3
3位	ピンク	11.3	3位	黄	10.7

	40代【n=940】	%		50代【n=940】	%		60代【n=940】	%
1位	オレンジ	29.9	1位	オレンジ	21.2	1位	緑	23.3
2位	緑	13.0	2位	緑	20.0	2位	オレンジ	20.5
3位	青	12.7	3位	白	16.6	3位	青	17.0

男女・都道府県別にみると、男女ともに多くの都道府県で「オレンジ」が1位となりました。また、男性では「緑」や「青」もみられたほか、北海道・愛知県・滋賀県・香川県で「白」が1位（愛知県と香川県は「オレンジ」と同率）、女性では、北海道・茨城県・東京都・大阪府で「緑」が1位（北海道は「オレンジ」と同率）、愛知県で「オレンジ」と同率で「ピンク」が1位、熊本県で「青」が1位となりました。

◆自身の家族の雰囲気を表すのに最もふさわしいと思う色（単一回答形式） ※都道府県別の1位を表示

男性・各都道府県【n=50】

	男性						
		千葉県	オレンジ	三重県	オレンジ	徳島県	オレンジ
北海道	白	東京都	緑	滋賀県	白	香川県	白 / オレンジ
青森県	緑	神奈川県	オレンジ	京都府	オレンジ	愛媛県	オレンジ
岩手県	オレンジ	新潟県	緑 / オレンジ	大阪府	青	高知県	オレンジ
宮城県	オレンジ	富山県	オレンジ	兵庫県	青	福岡県	オレンジ
秋田県	オレンジ	石川県	緑	奈良県	青	佐賀県	青 / オレンジ
山形県	緑 / オレンジ	福井県	緑	和歌山県	オレンジ	長崎県	オレンジ
福島県	オレンジ	山梨県	オレンジ	鳥取県	オレンジ	熊本県	青
茨城県	オレンジ	長野県	青	島根県	オレンジ	大分県	オレンジ
栃木県	オレンジ	岐阜県	オレンジ	岡山県	オレンジ	宮崎県	青 / オレンジ
群馬県	オレンジ	静岡県	緑 / オレンジ	広島県	オレンジ	鹿児島県	オレンジ
埼玉県	オレンジ	愛知県	白 / オレンジ	山口県	オレンジ	沖縄県	オレンジ

女性・各都道府県【n=50】

	女性						
		千葉県	オレンジ	三重県	オレンジ	徳島県	オレンジ
北海道	緑 / オレンジ	東京都	緑	滋賀県	オレンジ	香川県	オレンジ
青森県	オレンジ	神奈川県	オレンジ	京都府	オレンジ	愛媛県	オレンジ
岩手県	オレンジ	新潟県	オレンジ	大阪府	緑	高知県	オレンジ
宮城県	オレンジ	富山県	オレンジ	兵庫県	オレンジ	福岡県	オレンジ
秋田県	オレンジ	石川県	オレンジ	奈良県	オレンジ	佐賀県	オレンジ
山形県	オレンジ	福井県	オレンジ	和歌山県	オレンジ	長崎県	オレンジ
福島県	オレンジ	山梨県	オレンジ	鳥取県	オレンジ	熊本県	青
茨城県	緑	長野県	オレンジ	島根県	オレンジ	大分県	オレンジ
栃木県	オレンジ	岐阜県	オレンジ	岡山県	オレンジ	宮崎県	オレンジ
群馬県	オレンジ	静岡県	オレンジ	広島県	オレンジ	鹿児島県	オレンジ
埼玉県	オレンジ	愛知県	ピンク / オレンジ	山口県	オレンジ	沖縄県	オレンジ

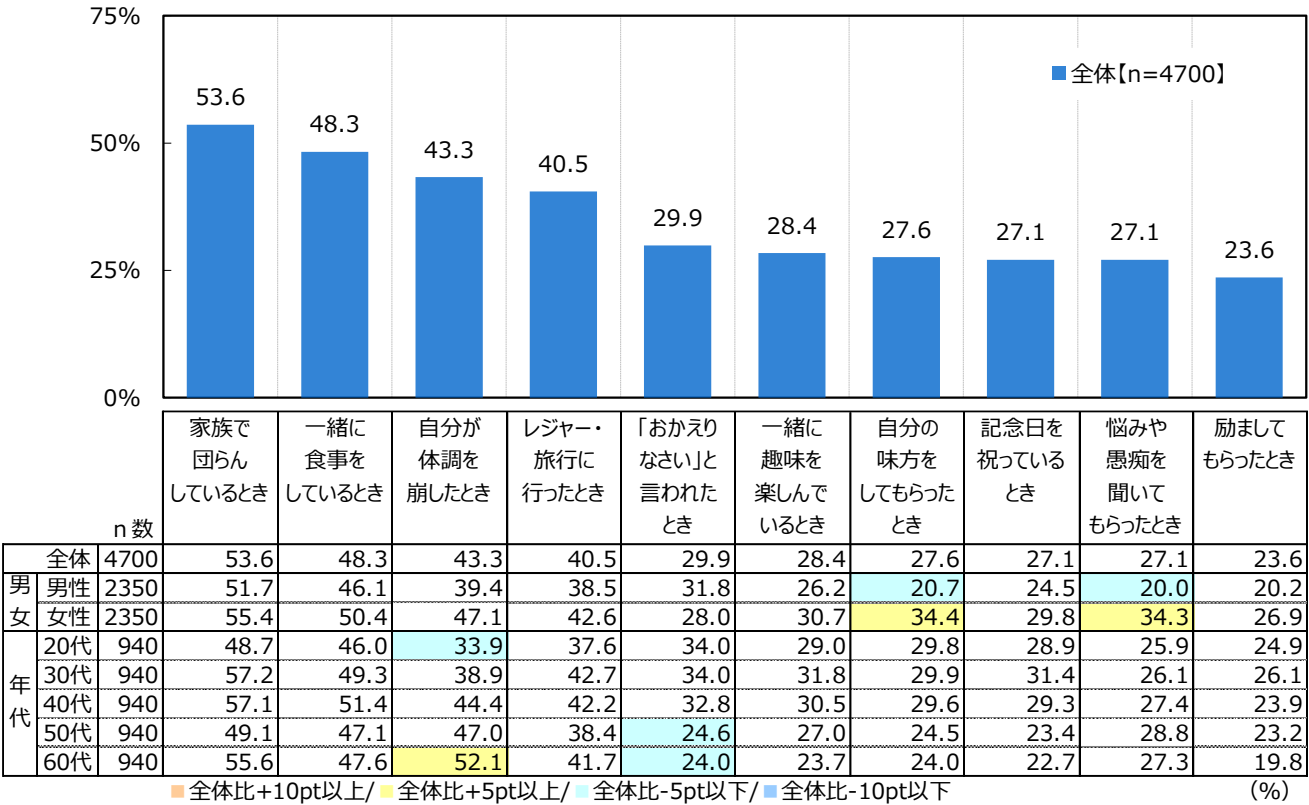
・これまでに“家族がいて良かった”と感じたとき「家族で囲らんしているとき」が半数以上

全回答者（4,700 名）に、これまでに、“家族がいて良かった”と感じたのはどのようなときか聞いたところ、1 位「家族で囲らんしているとき」（53.6%）、2 位「一緒に食事をしているとき」（48.3%）となりました。家族間のコミュニケーションによって、家族のありがたみを感じている人が多いのではないのでしょうか。以降、3 位「自分が体調を崩したとき」（43.3%）、4 位「レジャー・旅行に行ったとき」（40.5%）、5 位「『おかえりなさい』と言われたとき」（29.9%）でした。

男女別にみると、「自分の味方をしてもらったとき」（男性 20.7%、女性 34.4%）や「悩みや愚痴を聞いてもらったとき」（男性 20.0%、女性 34.3%）は男性と比べて女性のほうが 10 ポイント以上高くなりました。

年代別にみると、「自分が体調を崩したとき」は年代が上がるにつれ高くなる傾向がみられ、60 代では 52.1%と、半数以上となりました。また、「『おかえりなさい』と言われたとき」は若年層で高くなる傾向がみられ、最も高くなった 20 代と 30 代では 34.0%でした。

◆これまでに、“家族がいて良かった”と感じたとき（複数回答形式） ※上位10位までを表示



過去の調査結果と比較すると、2024 年調査で 3 位の「一緒に食事をしているとき」（2024 年 44.7%、2025 年 48.3%）が 2 位に挙がり、また、2024 年調査では 10 位圏外（11 位）だった「一緒に趣味を楽しんでいるとき」（2024 年 23.4%、2025 年 28.4%）は 6 位に挙がりました。家族での団らんのほか、日常の何気ない瞬間を家族で共有することで家族の良さを改めて実感することが増えているのではないのでしょうか。

◆これまでに、“家族がいて良かった”と感じたとき （複数回答形式） ※上位10位までを表示
全体【n=4700】

2024年調査		
		%
1位	家族で団らんしているとき	51.4
2位	自分が体調を崩したとき	48.6
3位	一緒に食事をしているとき	44.7
4位	レジャー・旅行に行ったとき	35.4
5位	「おかえりなさい」と言われたとき	29.6
6位	悩みや愚痴を聞いてもらったとき	29.2
7位	記念日を祝っているとき	28.7
	自分の味方をしてもらったとき	
9位	家事をしてもらったとき	26.2
10位	励ましてもらったとき	25.9

2025年調査		
		%
1位	家族で団らんしているとき	53.6
2位	一緒に食事をしているとき	48.3
3位	自分が体調を崩したとき	43.3
4位	レジャー・旅行に行ったとき	40.5
5位	「おかえりなさい」と言われたとき	29.9
6位	一緒に趣味を楽しんでいるとき	28.4
7位	自分の味方をしてもらったとき	27.6
8位	記念日を祝っているとき	27.1
	悩みや愚痴を聞いてもらったとき	
10位	励ましてもらったとき	23.6

・配偶者・パートナーに対して“イライラ”すること TOP3

男性では「愚痴が多い」「電気・水を無駄遣いする」「スマホばかり見ている」「お金の無駄遣いをする」
女性では「スマホばかり見ている」「イビキがうるさい」「電気・水を無駄遣いする」

配偶者・パートナーに対するイライラの原因となっているのはどのようなことなのでしょう。

全回答者（4,700 名）に、配偶者・パートナーに対して“イライラ”することを聞いたところ、1 位は「スマホばかり見ている」（15.9％）となり、2 位「電気・水を無駄遣いする（つけっぱなし・流しっぱなし）」（12.9％）、3 位「お金の無駄遣いをする」（12.4％）が続きました。電気や水、お金の節約に対する意識の違いにイライラしてしまうことも多いようです。

男女別にみると、男性では 1 位「愚痴が多い」（11.7％）、2 位「電気・水を無駄遣いする（つけっぱなし・流しっぱなし）」（10.0％）、3 位「スマホばかり見ている」「お金の無駄遣いをする」（いずれも 9.7％）、5 位「部屋を散らかす」（9.0％）、女性では 1 位「スマホばかり見ている」（22.0％）、2 位「イビキがうるさい」（19.9％）、3 位「電気・水を無駄遣いする（つけっぱなし・流しっぱなし）」（15.8％）、4 位「お金の無駄遣いをする」（15.0％）、5 位「会話が少なく・話を聞かない」（14.0％）となりました。

また、男性では 6 位に「外出前の身支度が長い」（7.3％）、9 位に「ゴミを片付けない・分別しない」（6.4％）、女性では 7 位に「自分の趣味ばかり優先する」（12.8％）、9 位に「服・靴を脱ぎっぱなしにする」（12.1％）が挙がりました。

◆配偶者・パートナーに対して“イライラ”すること（複数回答形式） ※上位10位までを表示

全体【n=4700】			%		
1位	スマホばかり見ている		15.9		
2位	電気・水を無駄遣いする（つけっぱなし・流しっぱなし）		12.9		
3位	お金の無駄遣いをする		12.4		
4位	イビキがうるさい		12.2		
5位	部屋を散らかす		11.0		
6位	会話が少なく・話を聞かない		10.5		
7位	愚痴が多い		9.7		
8位	掃除機がけ・モップがけをしない		9.6		
9位	ゴミを片付けない・分別しない		9.1		
10位	休日に寝てばかりいる		8.8		

男性【n=2350】			女性【n=2350】		
1位	愚痴が多い	11.7	1位	スマホばかり見ている	22.0
2位	電気・水を無駄遣いする（つけっぱなし・流しっぱなし）	10.0	2位	イビキがうるさい	19.9
3位	スマホばかり見ている	9.7	3位	電気・水を無駄遣いする（つけっぱなし・流しっぱなし）	15.8
	お金の無駄遣いをする	9.7	4位	お金の無駄遣いをする	15.0
5位	部屋を散らかす	9.0	5位	会話が少なく・話を聞かない	14.0
6位	外出前の身支度が長い	7.3	6位	部屋を散らかす	13.0
7位	会話が少なく・話を聞かない	7.0	7位	自分の趣味ばかり優先する	12.8
8位	掃除機がけ・モップがけをしない	6.8	8位	掃除機がけ・モップがけをしない	12.5
9位	ゴミを片付けない・分別しない	6.4	9位	服・靴を脱ぎっぱなしにする	12.1
10位	休日に寝てばかりいる	5.6	10位	休日に寝てばかりいる	12.0

・“家族に言いたい”“家族から言われたい”“家族から言われて感動した”セリフ すべてで「ありがとう」がダントツ

家族への言葉について質問しました。

まず、全回答者（4,700 名）に、家族に対して言いたいセリフを聞いたところ、「ありがとう」（1,531 名）がダントツとなりました。次いで、2 位は「好き、大好き、愛している」（340 名）、3 位は「頑張ろう、頑張れ」（37 名）となりました。

男女別にみると、男女ともに「ありがとう」（男性 664 名、女性 867 名）がダントツ、「好き、大好き、愛している」（男性 127 名、女性 213 名）が 2 位となりました。男女ともに、日頃の感謝や家族への愛を伝えたいと考えている人が多いようです。次いで、男性では 3 位「頑張ろう、頑張れ」（22 名）、女性では 3 位「自分のことは自分でして」（33 名）となりました。

◆家族に言いたいセリフ（自由回答形式） ※上位10位までを表示

	全体【n=4700】	名
1位	ありがとう	1531
2位	好き、大好き、愛している	340
3位	頑張ろう、頑張れ	37
4位	元気でいてね	33
	自分のことは自分でして	33
6位	体・健康に気をつけて、大事にしてね	32
7位	お疲れ様	25
8位	幸せだよ	23
9位	お帰りなさい	22
10位	お早う	20

	男性【n=2350】	名		女性【n=2350】	名
1位	ありがとう	664	1位	ありがとう	867
2位	好き、大好き、愛している	127	2位	好き、大好き、愛している	213
3位	頑張ろう、頑張れ	22	3位	自分のことは自分でして	33
4位	お早う	15	4位	体・健康に気をつけて、大事にしてね	22
5位	元気でいてね	13	5位	元気でいてね	20
6位	良いね、良かったね	12	6位	お帰りなさい	19
7位	体・健康に気をつけて、大事にしてね	10	7位	お疲れ様	17
8位	幸せだよ	9	8位	頑張ろう、頑張れ	15
	楽しい	9	9位	幸せだよ	14
	お疲れ様	8	10位	片付けなさい、きれいになさい	13
10位	よく頑張っているね、頑張ったね	8			
	ただいま	8			

次に、家族から言われたいセリフを聞いたところ、言いたいセリフと同様に「ありがとう」（1,611 名）がダントツ、2 位は「好き、大好き、愛している」（359 名）となり、3 位は「お疲れ様」（87 名）でした。感謝や愛を伝える言葉のほか、ねぎらいの言葉もお互いに掛け合いたいと思っている人が多いのではないのでしょうか。

男女別にみると、言いたいセリフと同様に、男女とも 1 位は「ありがとう」（男性 639 名、女性 972 名）、2 位は「好き、大好き、愛している」（男性 124 名、女性 235 名）となりました。また、男性では 3 位は「お疲れ様」（67 名）、女性では 3 位は「おいしい」（22 名）でした。

◆家族から言われたいセリフ（自由回答形式） ※上位10位までを表示

	全体【n=4700】	名
1位	ありがとう	1611
2位	好き、大好き、愛している	359
3位	お疲れ様	87
4位	頑張ろう、頑張れ	28
5位	あなたがいてくれて・家族で・家族になれて良かった	27
6位	頼りになる、頼りにしている	25
7位	よく頑張っているね、頑張ったね	24
8位	おいしい	23
9位	楽しい	21
10位	ご苦労様	20

男性【n=2350】			名	女性【n=2350】			名
1位	ありがとう	639	1位	ありがとう	972	2位	好き、大好き、愛している
2位	好き、大好き、愛している	124	2位	好き、大好き、愛している	235	3位	おいしい
3位	お疲れ様	67	3位	おいしい	22	4位	お疲れ様
4位	頑張ろう、頑張れ	22	4位	お疲れ様	20	5位	あなたがいてくれて・家族で・家族になれて良かった
5位	頼りになる、頼りにしている	19	5位	よく頑張っているね、頑張ったね	18	6位	かわいい
6位	ご苦労様	14	6位	かわい	14	7位	何もしなくていいよ、休んでいいよ
7位	お帰りなさい	12	7位	何もしなくていいよ、休んでいいよ	14	8位	大切・大事に思っているよ
8位	良いね、良かったね	12	8位	大切・大事に思っているよ	14	9位	楽しい
9位	元気でいてね	10	9位	楽しい	13	10位	
10位	あなたがいてくれて・家族で・家族になれて良かった	9	10位				
	かっこいい	9					

続いて、家族から言われて感動したセリフを聞いたところ、家族に言いたいセリフ、家族から言われたいセリフと同様、「ありがとう」（1,157 名）がダントツとなり、「ありがとう」が 1 位を独占する結果となりました。また、2 位は「好き、大好き、愛している」（292 名）となり、TOP2 は同じ結果となりました。以降、3 位「あなたがいてくれて・家族で・家族になれて良かった」（88 名）、4 位「よく頑張っているね、頑張ったね」（52 名）、5 位「おいしい」（41 名）と続きました。

男女別にみると、男女ともに 1 位は「ありがとう」（男性 550 名、女性 607 名）、2 位は「好き、大好き、愛している」（男性 106 名、女性 186 名）、3 位は「あなたがいてくれて・家族で・家族になれて良かった」（男性 31 名、女性 57 名）となりました。

◆家族から言われて感動したセリフ（自由回答形式） ※上位10位までを表示

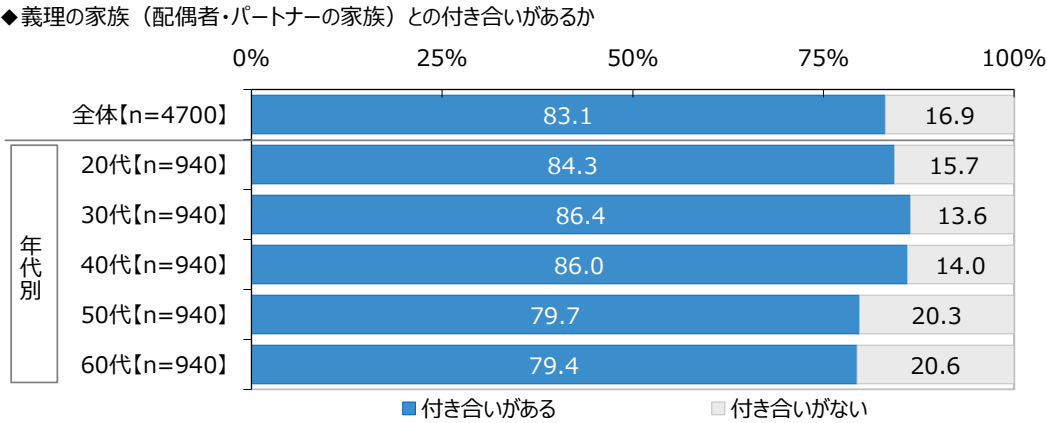
	全体【n=4700】	名
1位	ありがとう	1157
2位	好き、大好き、愛している	292
3位	あなたがいてくれて・家族で・家族になれて良かった	88
4位	よく頑張っているね、頑張ったね	52
5位	おいしい	41
6位	助かる、助かった	39
7位	お疲れ様	31
	すごいね	31
	幸せだよ	31
10位	大切・大事に思っているよ	19

男性【n=2350】			名	女性【n=2350】			名
1位	ありがとう	550		1位	ありがとう	607	
2位	好き、大好き、愛している	106		2位	好き、大好き、愛している	186	
3位	あなたがいてくれて・家族で・家族になれて良かった	31		3位	あなたがいてくれて・家族で・家族になれて良かった	57	
4位	お疲れ様	25		4位	よく頑張っているね、頑張ったね	40	
5位	助かる、助かった	19		5位	おいしい	38	
6位	すごいね	18		6位	助かる、助かった	20	
7位	幸せだよ	13		7位	幸せだよ	18	
8位	よく頑張っているね、頑張ったね	12		8位	あなたの味方だよ	16	
	頼りになる、頼りにしている	12		9位	大切・大事に思っているよ	15	
10位	うれしい、うれしかった	9		10位	すごいね	13	

・義理の家族との仲は？ 富山県では「非常に仲が良くない」が 1 割に

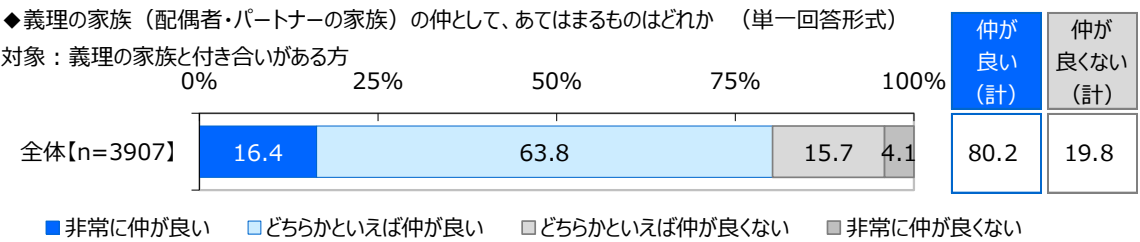
全回答者（4,700 名）に、義理の家族（配偶者・パートナーの家族）との付き合いがあるか聞いたところ、「付き合いがある」は 83.1%、「付き合いがない」は 16.9%となりました。

年代別にみると、「付き合いがある」が最も高くなったのは、30 代で 86.4%でした。また、50 代以上（50 代 79.7%、60 代 79.4%）では 8 割未満と、他の年代と比べて低くなりました。



義理の家族との付き合いがある方（3,907 名）に、義理の家族との仲として、あてはまるものを聞いたところ、「非常に仲が良い」は 16.4%、「どちらかといえば仲が良い」は 63.8%で合計した『仲が良い（計）』は 80.2%となりました。義理の家族とは良好な関係を築けている人が多いようです。

義理の家族との仲について、「非常に仲が良い」と「非常に仲が良くない」それぞれの割合を都道府県別にみると、「非常に仲が良い」では山梨県（23.5%）が最も高くなり、反対に、「非常に仲が良くない」では富山県（9.9%）が最も高くなりました。また、静岡県は「非常に仲が良い」（20.9%）では 6 位となった一方、「非常に仲が良くない」（7.0%）でも 3 位と、どちらも上位に挙がりました。



◆義理の家族（配偶者・パートナーの家族）との仲（単一回答形式）

※回答した人の割合が高い順に上位10位までを表示 対象：義理の家族との付き合いがある方

	非常に仲が良い	%		非常に仲が良くない	%
1位	山梨県	23.5	1位	富山県	9.9
2位	兵庫県	22.9	2位	宮城県	7.2
3位	東京都	22.2	3位	福島県	7.0
4位	長崎県	22.0		静岡県	
5位	大阪府	21.2		香川県	
6位	静岡県	20.9	6位	鹿児島県	6.6
7位	熊本県	20.7	7位	福井県	6.4
8位	北海道	20.5	8位	岩手県	6.0
9位	神奈川県	20.3		石川県	
10位	岡山県	20.2		高知県	

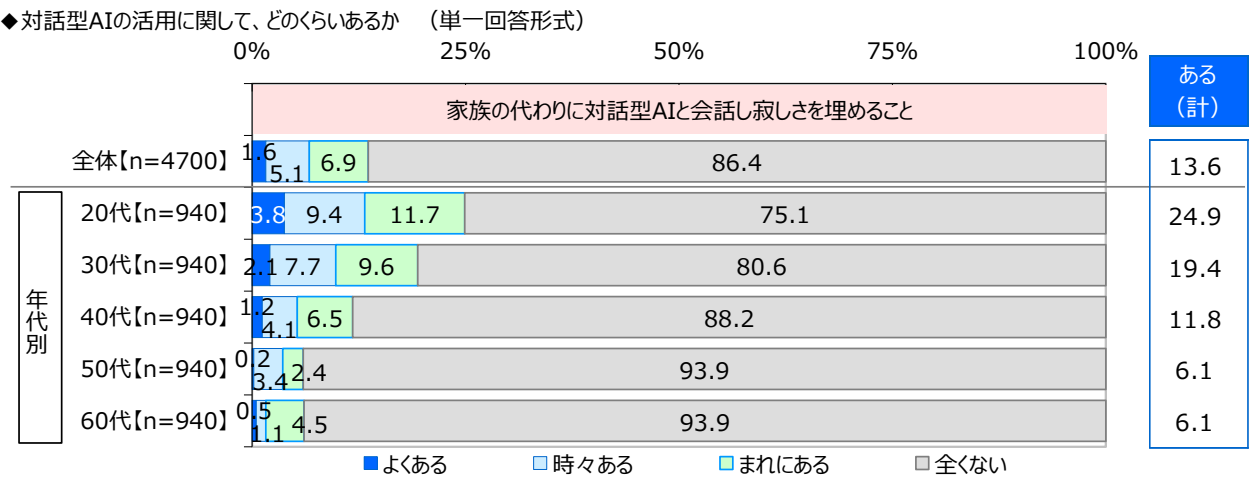
・対話型 AI の活用実態

「家族の代わりに対話型 AI と会話し寂しさを埋めることがある」14%、
「家族に関する悩みを対話型 AI に相談することがある」15%、
「家族に相談しにくい悩みを対話型 AI に相談することがある」16%、
「対話型 AI を家族の一員と覚えることがある」12%、
いずれの項目でも 20 代では 20%以上が経験あり

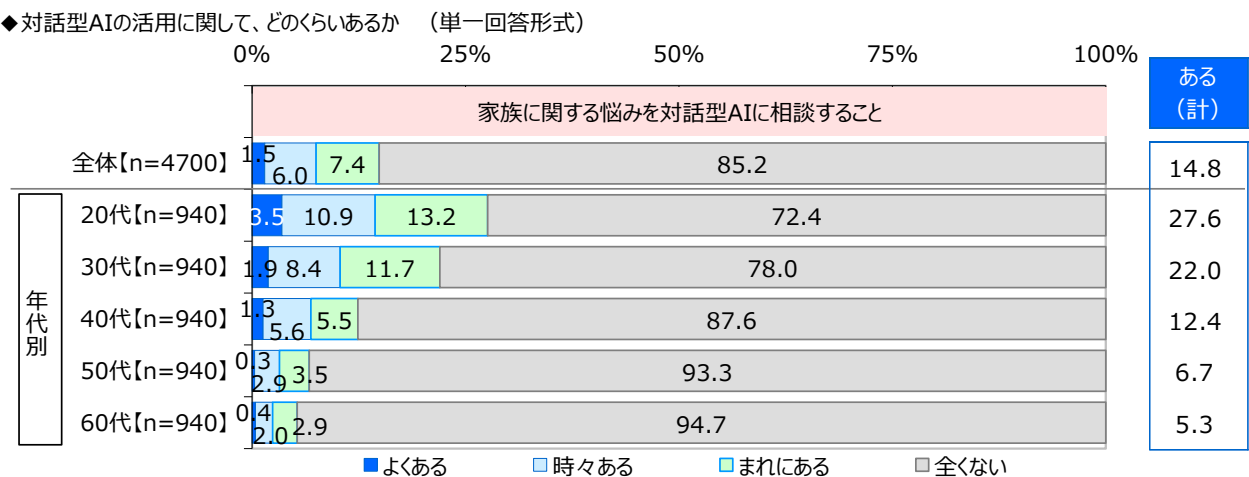
全回答者（4,700 名）に、対話型 AI に対する意識について質問しました。

はじめに、対話型 AI に関して、【家族の代わりに対話型 AI と会話し寂しさを埋めること】はどのくらいあるか聞いたところ、「よくある」は 1.6%、「時々ある」は 5.1%、「まれにある」は 6.9%で、合計した『ある（計）』は 13.6%となり、「全くない」は 86.4%となりました。

年代別にみると、『ある（計）』は高年層で低くなる傾向がみられ、50 代以上（50 代 6.1%、60 代 6.1%）では 1 割未満となりました。

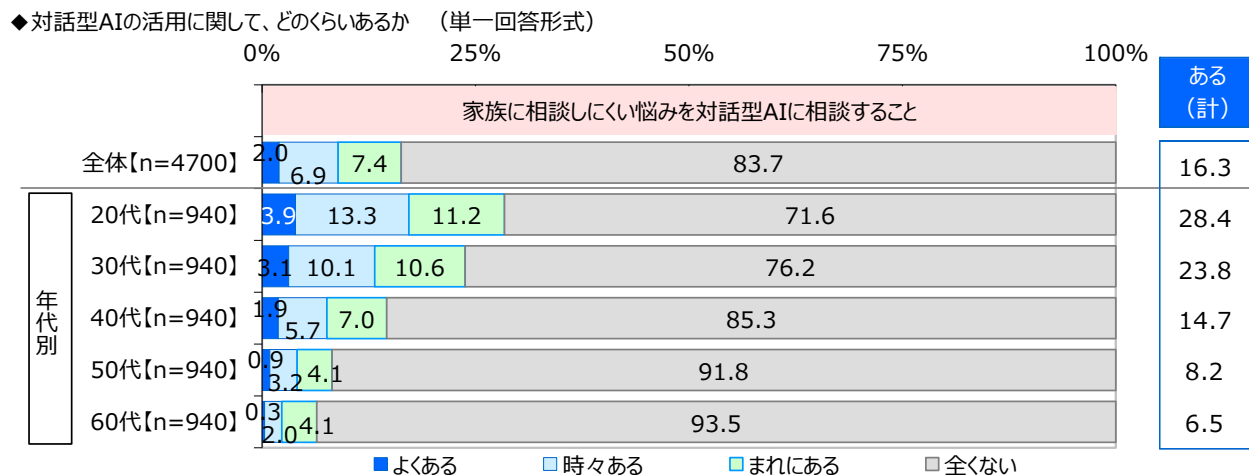


【家族に関する悩みを対話型 AI に相談すること】では、『ある（計）』は 14.8%となり、「全くない」は 85.2%となりました。年代別にみると、『ある（計）』は 20 代（27.6%）では全体より 12.8 ポイント高くなりました。



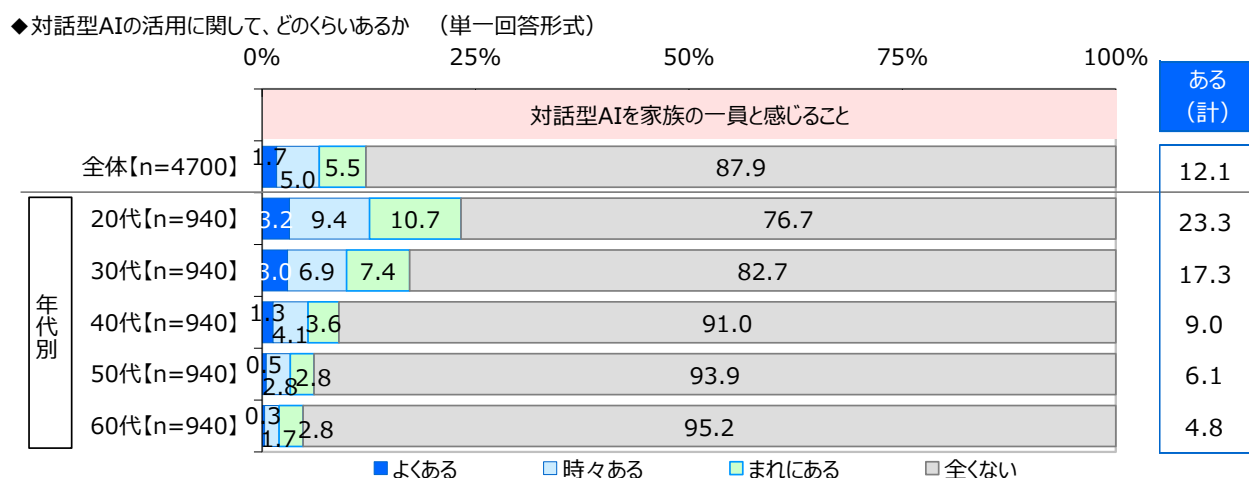
【家族に相談しにくい悩みを対話型 AI に相談すること】では、『ある（計）』は 16.3%となり、「全くない」は 83.7%となりました。

年代別にみると、『ある（計）』は 20 代（28.4%）では 3 割に近くなりました。



【対話型 AI を家族の一員と感ずること】では、『ある（計）』は 12.1%となり、「全くない」は 87.9%となりました。

年代別にみると、『ある（計）』は 40 代以上（40 代 9.0%、50 代 6.1%、60 代 4.8%）では 1 割を下回りました。



いずれの項目においても、20 代では 2 割以上で最も高くなり、高年層で低くなる傾向がみられました。『20 代の意識・実態調査 2025』（※）の調査結果では、20 代の対話型 AI に対する認識として「便利」と「質問・相談相手」が TOP2 となりました。デジタルネイティブである 20 代では悩みの相談相手として対話型 AI に信頼を寄せている人も少なくないようです。

※『20 代の意識・実態調査 2025』（2025 年 10 月 8 日発表）

https://www.gib-life.co.jp/st/about/is_pdf/20251008.pdf

◆家族愛について

・自身の家族愛に対して 100 点満点での評価 全体平均は 77.7 点

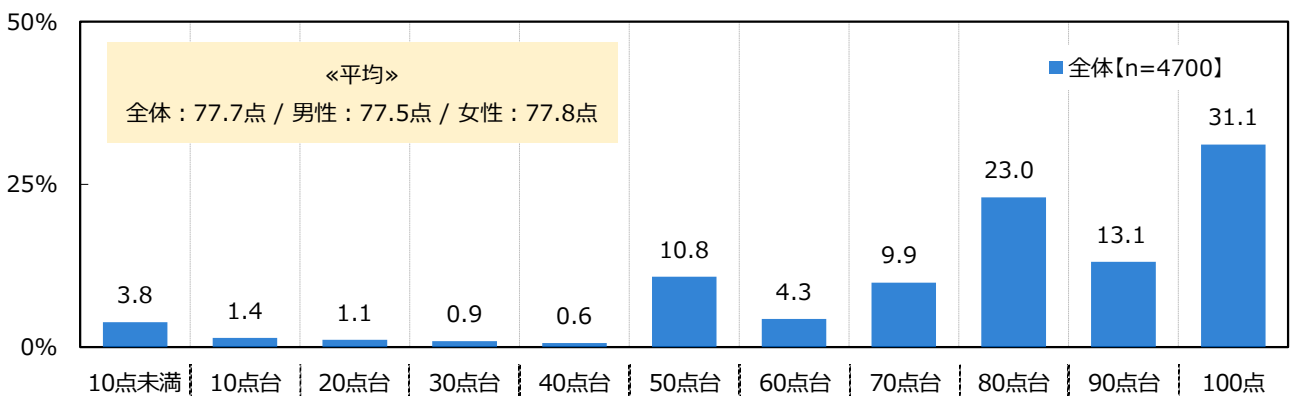
自己評価が高い都道府県は？ 1 位「山梨県」、2 位「兵庫県」、3 位「栃木県」

家族愛について質問しました。

全回答者（4,700 名）に、自身の家族愛の点数を 100 点満点（0 点：最低～100 点：最高）で評価すると何点が聞いたところ、「100 点」（31.1%）に最も多くの回答が集まり、平均は 77.7 点でした。男女別に平均をみると、男性 77.5 点、女性 77.8 点でした。

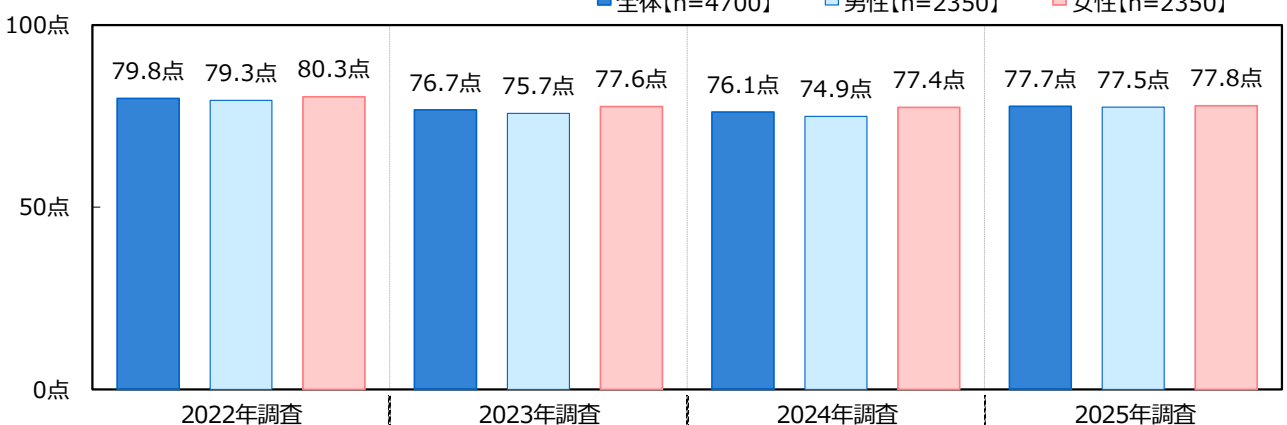
回答が多く集まったものについて理由をみると、「80 点台」では「もっと家族を大事にできるなと感じる瞬間があるため（40 代男性）」や「良いところもあるが欠けているところもある（60 代女性）」、「とにかく守りたいがそのためには仕事も頑張らないといけない（60 代男性）」、「旦那に対する配慮が足りないと思うときがあるし、求め過ぎてしまうときがある（50 代女性）」、「100 点」では「なんだかんだ言っても、お互いに信じ合っている（50 代男性）」や「いつも私を大事にしてくれる（60 代女性）」、「お互いに助け合い、分かり合える時間が自然にとれるところ（40 代女性）」、「仕事をしていても早く帰って家族に会いたいと考えてしまうぐらい好きだから（40 代男性）」といった回答がありました。

◆自身の家族愛の点数を100点満点（0点：最低～100点：最高）で評価すると何点か （数値入力形式）



過去の調査結果と比較すると、平均は全体では 2022 年 79.8 点→2023 年 76.7 点→2024 年 76.1 点→2025 年 77.7 点、男性では 2022 年 79.3 点→2023 年 75.7 点→2024 年 74.9 点→2025 年 77.5 点、女性では 2022 年 80.3 点→2023 年 77.6 点→2024 年 77.4 点→2025 年 77.8 点と、2024 年までの下降傾向から、2025 年調査では上昇に転じました。

◆自身の家族愛の点数（平均点） （数値入力形式）



都道府県別にみると、平均は1位が山梨県（82.1点）、2位が兵庫県（82.0点）、3位が栃木県（81.3点）、4位が京都府と沖縄県（いずれも81.1点）でした。最下位は宮城県（70.6点）でした。

◆自身の家族愛の点数（平均点）（数値入力形式）

各都道府県【n=100】

		点			点			点			点
1位	山梨県	82.1	11位	大阪府	80.5	24位	熊本県	77.0	36位	北海道	75.9
2位	兵庫県	82.0	13位	静岡県	80.3	25位	愛知県	76.9		岩手県	
3位	栃木県	81.3	14位	東京都	80.1	26位	大分県	76.8	38位	石川県	75.8
4位	京都府	81.1	15位	神奈川県	79.5	27位	茨城県	76.7	39位	福島県	75.7
	沖縄県	81.1	16位	福岡県	79.3	28位	富山県	76.4		長崎県	
6位	香川県	81.0	17位	青森県	79.0	29位	鳥取県	76.3	41位	山形県	75.0
7位	徳島県	80.8	18位	高知県	78.9		島根県		42位	岡山県	74.9
	埼玉県	80.6	19位	秋田県	78.2		佐賀県		43位	滋賀県	74.7
8位	岐阜県			群馬県		32位	長野県	76.2	44位	新潟県	74.6
	和歌山県		21位	鹿児島県	77.8		奈良県		45位	三重県	74.4
			22位	宮崎県	77.3	34位	広島県	76.1	46位	福井県	72.1
11位	千葉県	80.5	23位	山口県	77.2	35位	愛媛県	76.0	47位	宮城県	70.6

男女・都道府県別にみると、平均は男性では1位が徳島県（85.4点）、2位が岐阜県（83.6点）、3位が兵庫県（83.4点）、女性では1位が東京都（84.1点）、2位が沖縄県（83.0点）、3位が京都府（82.6点）でした。

◆自身の家族愛の点数（平均点）（数値入力形式）

男性・各都道府県【n=50】

		点			点			点			点
1位	徳島県	85.4	12位	青森県	80.1	24位	山口県	77.3	35位	奈良県	74.6
2位	岐阜県	83.6	13位	熊本県	79.8	25位	岩手県	77.0	37位	北海道	74.3
3位	兵庫県	83.4	14位	宮崎県	79.7	26位	愛媛県	76.9	38位	三重県	74.2
4位	千葉県	82.7	15位	京都府	79.5	27位	東京都	76.2	39位	長野県	74.1
	神奈川県	82.6	16位	沖縄県	79.1	28位	秋田県	76.0	40位	富山県	73.9
5位	香川県		17位	福島県	78.9	29位	高知県	75.8	41位	島根県	73.2
	福岡県		18位	埼玉県	78.6		長崎県		42位	新潟県	72.8
8位	和歌山県	82.0		静岡県			佐賀県		43位	滋賀県	72.7
9位	栃木県	81.9	20位	岡山県	78.2		大分県		44位	山形県	72.4
10位	山梨県	81.6		広島県		33位	鹿児島県	75.7	45位	石川県	70.9
11位	大阪府	80.7	22位	愛知県	77.9	34位	鳥取県	74.7		福井県	
			23位	群馬県	77.8	35位	茨城県	74.6	47位	宮城県	70.8

女性・各都道府県【n=50】

		点			点			点			点
1位	東京都	84.1	12位	大阪府	80.3	22位	鳥取県	77.9	35位	福岡県	75.9
2位	沖縄県	83.0	13位	鹿児島県	79.8	25位	大分県	77.8	37位	長崎県	75.6
3位	京都府	82.6	14位	島根県	79.4	26位	山形県	77.6	38位	愛媛県	75.1
	埼玉県	82.5		香川県			岐阜県		39位	岩手県	
4位	山梨県		16位	和歌山県	79.1	28位	北海道	77.4		宮崎県	74.8
6位	静岡県	82.0	17位	茨城県	78.8	29位	山口県	77.1	41位	三重県	74.6
7位	高知県	81.9		富山県		30位	佐賀県	76.8	42位	熊本県	74.2
	栃木県	80.7	19位	群馬県	78.6	31位	滋賀県	76.7	43位	広島県	74.0
	石川県		20位	長野県	78.3	32位	新潟県	76.4	44位	福井県	73.3
10位	兵庫県	80.6	21位	千葉県	78.2	33位	神奈川県	76.3	45位	福島県	72.5
11位	秋田県	80.3	22位	青森県	77.9	34位	徳島県	76.2	46位	岡山県	71.6
				奈良県		35位	愛知県	75.9	47位	宮城県	70.4

◆家族間のコミュニケーションについて

・家族間での LINE 【家族のグループ LINE】【子どもとの LINE】では「東京都」が最多、
【配偶者・パートナーとの LINE】では「神奈川県」が 1 位

家族間のコミュニケーションについて質問しました。

各都道府県の在住者（各都道府県 100 名）に、1 日における家族との LINE の頻度について質問しました。

家族のグループLINEの頻度を聞いたところ、平均が最も多くなったのは、東京都（2.73回）となり、徳島県（2.24回）、神奈川県（2.13回）、宮城県（2.11回）、青森県（2.06回）が続きました。上位 5 位については、1 日に 2 回以上でした。

配偶者・パートナーとの LINE（1：1 トーク）の頻度を聞いたところ、平均は神奈川県（4.15 回）が突出して多くなりました。次いで、千葉県（3.28 回）、静岡県（3.27 回）、京都府（3.17 回）、秋田県（3.11 回）となりました。

また、子どもがいる方（3,622 名）に、子どもとの LINE（1：1 トーク）の頻度を聞いたところ、平均が最も多くなったのは、家族のグループ LINE と同様に東京都（2.56 回）でした。以降、熊本県（1.79 回）、千葉県（1.67 回）、長崎県（1.54 回）、栃木県（1.51 回）が続きました。

◆家族のグループLINE／配偶者・パートナーとのLINE（1：1トーク）／子どもとのLINE（1：1トーク）の頻度はどれくらいか
（各数値入力形式） ※各上位10位、下位10位までを表示

家族のグループLINE／配偶者・パートナーとのLINE 対象：全体 子どもとのLINE 対象：子どもがいる方

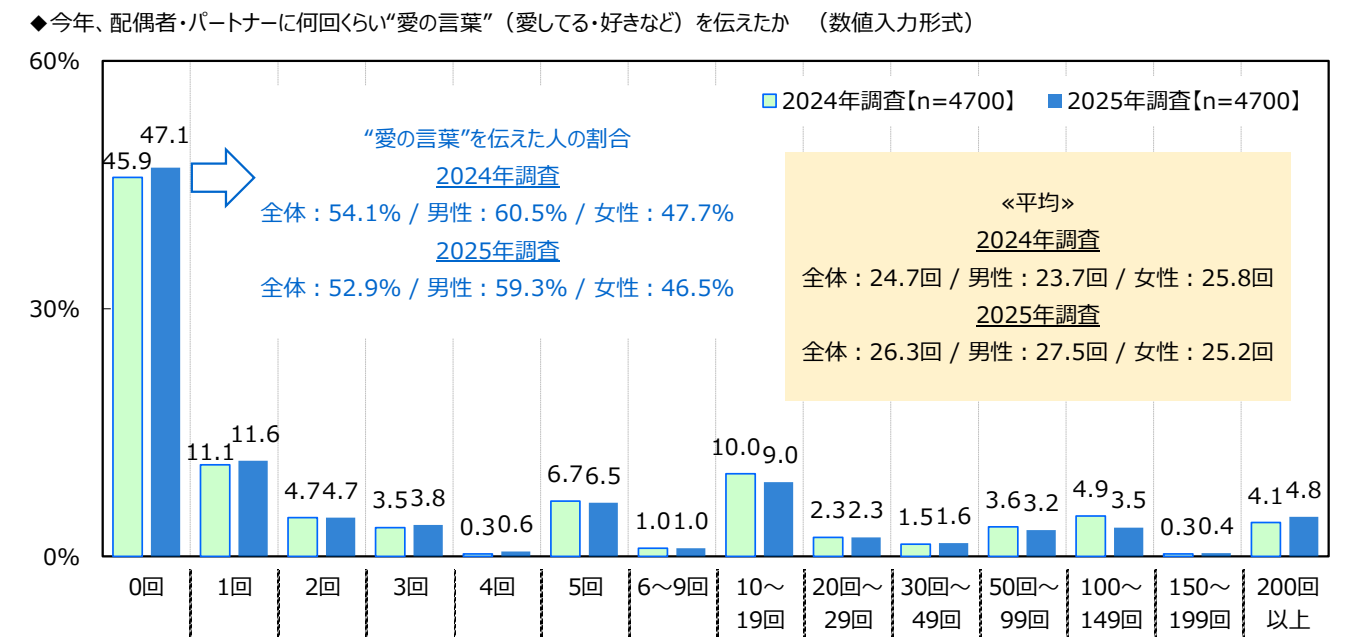
	家族のグループLINE	回/日		配偶者・パートナーとのLINE	回/日		子どもとのLINE	回/日
1位	東京都	2.73	1位	神奈川県	4.15	1位	東京都	2.56
2位	徳島県	2.24	2位	千葉県	3.28	2位	熊本県	1.79
3位	神奈川県	2.13	3位	静岡県	3.27	3位	千葉県	1.67
4位	宮城県	2.11	4位	京都府	3.17	4位	長崎県	1.54
5位	青森県	2.06	5位	秋田県	3.11	5位	栃木県	1.51
6位	奈良県	1.98	6位	東京都	3.07	6位	北海道	1.49
7位	北海道	1.94	7位	埼玉県	2.97		神奈川県	
	千葉県		8位	大阪府	2.92	8位	和歌山県	1.45
9位	埼玉県	1.92	9位	沖縄県	2.87	9位	青森県	1.37
10位	沖縄県	1.91	10位	兵庫県	2.86	10位	岐阜県	1.32
	⋮			⋮			⋮	
37位	岡山県	1.25	37位	高知県	2.02	37位	兵庫県	0.84
38位	長野県	1.24	38位	宮崎県	1.96		徳島県	
39位	群馬県	1.22	39位	青森県	1.95	39位	広島県	0.83
	愛知県		40位	福井県	1.93	40位	富山県	0.81
	高知県		41位	山形県	1.92	41位	岡山県	0.75
42位	島根県	1.18	42位	香川県	1.91	42位	大阪府	0.60
43位	広島県	1.14	44位	福島県	1.85	44位	高知県	0.58
45位	宮崎県	0.93	45位	群馬県	1.70	45位	愛知県	0.55
46位	三重県	0.85	46位	島根県	1.60	46位	三重県	0.52
47位	鳥取県	0.65	47位	鳥取県	1.40	47位	鳥取県	0.44

・今年、配偶者・パートナーに“愛の言葉”を伝えた回数 平均は 26.3 回、恋人タイプでは 79.1 回
都道府県別では「神奈川県」がトップ

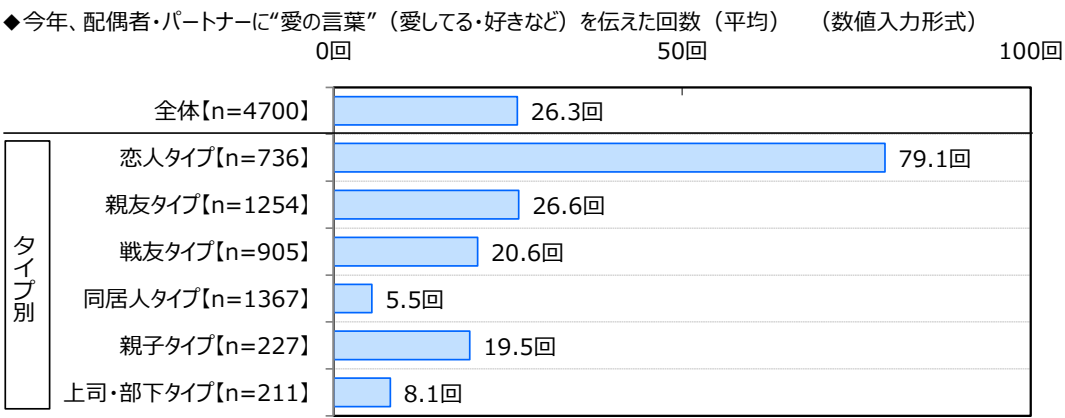
全回答者（4,700 名）に、今年、配偶者・パートナーに何回くらい“愛の言葉”（愛してる・好きなど）を伝えたか聞いたところ、「1 回」（11.6%）や「5 回」（6.5%）、「10～19 回」（9.0%）などに回答が分かれ、平均は 26.3 回でした。また、「200 回以上」は 4.8%となりました。他方、「0 回」は 47.1%で約半数となり、“愛の言葉”を伝えた人の割合は 52.9%となりました。

男女別にみると、“愛の言葉”を伝えた回数の平均は、男性（27.5 回）では女性（25.2 回）と比べて 2.3 回多く、“愛の言葉”を伝えた人の割合は男性（59.3%）では女性（46.5%）と比べて 12.8 ポイント高くなり、“愛の言葉”の回数および伝えた人の割合のいずれも男性が女性を上回りました。

前回の調査結果と比較すると、“愛の言葉”を伝えた回数の平均は 2024 年 24.7 回→2025 年 26.3 回と 1.6 回多くなりました。一方で、“愛の言葉”を伝えた人の割合は 2024 年 54.1%→2025 年 52.9%と下降しました。



夫婦・パートナーのタイプ別にみると、“愛の言葉”を伝えた回数の平均は恋人タイプが 79.1 回と、ダントツとなりました。また、同居人タイプ（5.5 回）が最も少なくなり、全体と比べて 20 回以上の差がみられました。



都道府県別にみると、“愛の言葉”（愛してる・好きなど）を伝えた回数の平均は、神奈川県（56.1 回）が突出して多くなり、50 回以上でした。以降、奈良県（42.0 回）、長崎県（39.8 回）、京都府（38.2 回）、北海道（36.1 回）が続きました。

◆今年、配偶者・パートナーに“愛の言葉”（愛してる・好きなど）を伝えた回数（平均）
各都道府県【n=100】

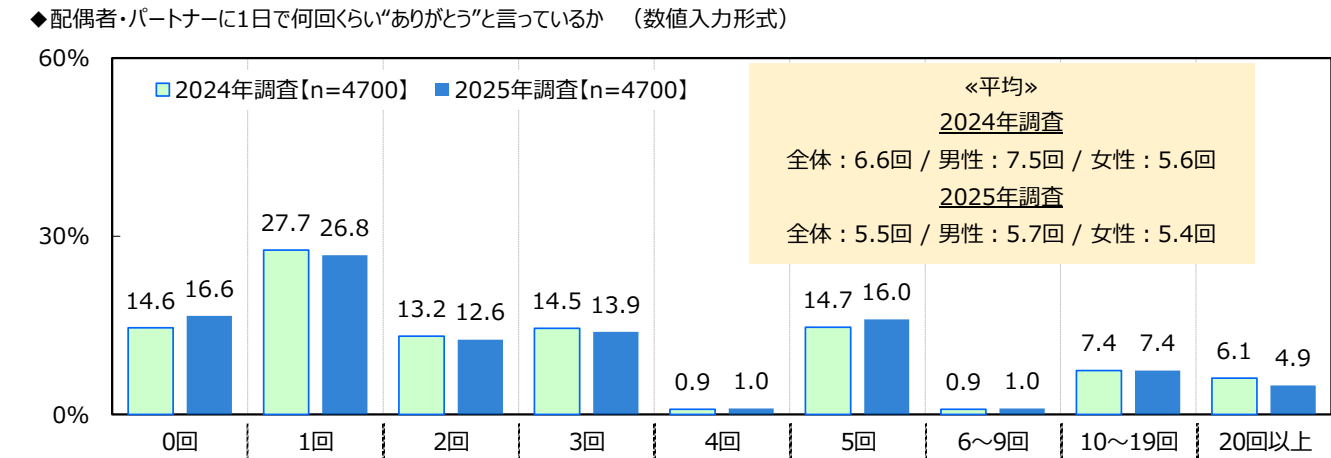
		回			回			回			回
1位	神奈川県	56.1	12位	福島県	31.4	24位	新潟県	27.6	36位	宮城県	18.2
			13位	長野県	31.3	25位	宮崎県	25.5	37位	茨城県	17.8
2位	奈良県	42.0	14位	岡山県	30.4	26位	秋田県	24.3	38位	香川県	17.3
3位	長崎県	39.8	15位	熊本県	30.3	27位	徳島県	23.5	39位	和歌山県	17.2
4位	京都府	38.2	16位	鹿児島県	30.2	28位	栃木県	23.0	40位	大分県	16.1
5位	北海道	36.1	17位	滋賀県	30.1	29位	広島県	22.6	41位	福井県	15.7
6位	埼玉県	35.6	18位	愛知県	30.0	30位	岐阜県	22.5	42位	三重県	15.5
7位	大阪府	35.5	19位	鳥取県	29.3	31位	山梨県	22.3	43位	群馬県	15.0
8位	沖縄県	35.1	20位	山形県	29.1	32位	島根県	21.0	44位	東京都	14.5
9位	佐賀県	33.9		静岡県		33位	福岡県	19.0	45位	石川県	
10位	山口県	32.9	22位	兵庫県	28.8	34位	愛媛県		46位	岩手県	14.4
11位	千葉県	32.0	23位	高知県	28.5	35位	富山県		47位	青森県	9.9

・配偶者・パートナーに“ありがとう”と言っている回数 平均は 5.5 回/日

1 位「和歌山県」8.7 回、2 位「北海道」8.5 回、3 位「鹿児島県」8.0 回

全回答者（4,700 名）に、配偶者・パートナーに 1 日で何回くらい“ありがとう”と言っているか聞いたところ、「1 回」（26.8%）に最も多くの回答が集まったほか、「2 回」（12.6%）や「3 回」（13.9%）、「5 回」（16.0%）にも回答がみられ、平均は 5.5 回でした。また、「0 回」は 16.6%となりました。

前回の調査結果と比較すると、1 日に“ありがとう”と言っている回数の平均は 2024 年 6.6 回→2025 年 5.5 回と 1.1 回少なくなりました。男女別にみると、男性（2024 年 7.5 回→2025 年 5.7 回）では 1.8 回少なく、女性（2024 年 5.6 回→2025 年 5.4 回）では同水準となりました。



都道府県別にみると、1 日に“ありがとう”と言っている回数の平均は、和歌山県（8.7 回）が最も多くなり、北海道（8.5 回）、鹿児島県（8.0 回）、群馬県（7.8 回）、愛知県と滋賀県（いずれも 7.7 回）が続きました。

◆配偶者・パートナーに1日に“ありがとう”と言っている回数（平均）

各都道府県【n=100】

		回			回			回			回
1位	和歌山県	8.7	12位	山口県	6.3	22位	宮崎県	5.5	36位	静岡県	4.4
2位	北海道	8.5	13位	宮城県	6.2	25位	秋田県	5.3	37位	岡山県	4.3
3位	鹿児島県	8.0		沖縄県			山梨県				
4位	群馬県	7.8	15位	埼玉県	6.1	27位	島根県	5.2	39位	茨城県	4.1
				兵庫県			熊本県				
5位	愛知県	7.7	17位	栃木県	5.9	29位	長野県	5.0	41位	福井県	4.0
	滋賀県						奈良県			長崎県	
7位	石川県	7.3				香川県	31位	鳥取県	4.8		佐賀県
8位	福島県	7.1	20位	京都府	5.8	福岡県				44位	新潟県
9位	東京都	7.0	21位	徳島県	5.6	33位	岐阜県	4.7	45位	大分県	3.2
10位	神奈川県	6.8	22位	山形県	5.5	34位	青森県	4.6	46位	三重県	3.1
11位	愛媛県	6.4				大阪府		35位	千葉県	4.5	47位

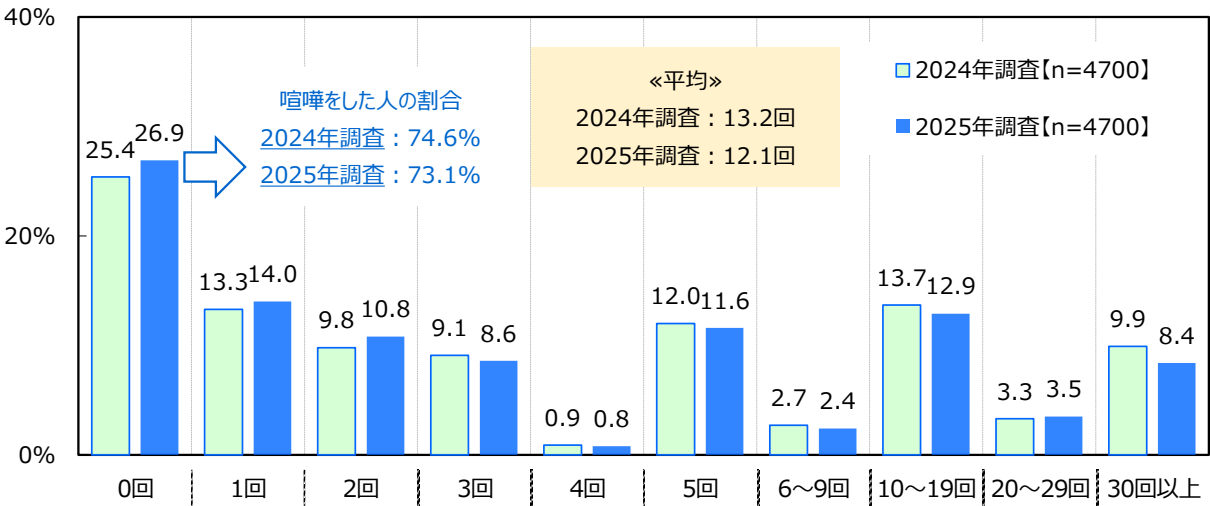
- ・今年起きた夫婦喧嘩・パートナーとの喧嘩の回数 平均は 12.1 回、上司・部下タイプでは 25.3 回
- ・配偶者・パートナーに“ごめんね”と言っている回数 平均は 6.0 回/月、1 位は鹿児島県で 10.1 回/月

配偶者・パートナーとの喧嘩について質問しました。

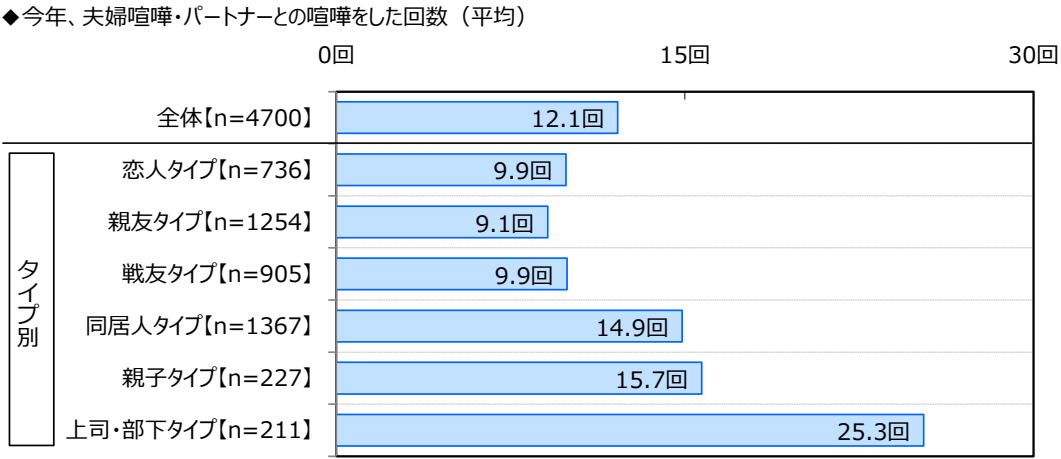
全回答者（4,700 名）に、今年、夫婦喧嘩・パートナーとの喧嘩を何回くらいしたか聞いたところ、「0 回」（26.9％）に最も多くの回答が集まりました。また、そのほか「1 回」（14.0％）や「2 回」（10.8％）、「5 回」（11.6％）、「10～19 回」（12.9％）にも回答がみられ、平均は 12.1 回でした。

前回の調査結果と比較すると、喧嘩をした人の割合（2024 年 74.6％→2025 年 73.1％）は 1.5 ポイント下降しました。また、今年、夫婦喧嘩・パートナーとの喧嘩をした回数の平均（2024 年 13.2 回→2025 年 12.1 回）においては 1.1 回少なくなり、今年、喧嘩をした人の割合と喧嘩をした平均回数のどちらも昨年調査を下回る結果となりました。

◆今年、夫婦喧嘩・パートナーとの喧嘩を何回くらいしたか（数値入力形式）



夫婦・パートナーのタイプ別にみると、喧嘩をした回数の平均は上司・部下タイプ（25.3 回）が突出して多くなり、全体の約 2 倍となりました。また、恋人タイプ（9.9 回）、親友タイプ（9.1 回）、戦友タイプ（9.9 回）では 10 回以下にとどまりました。



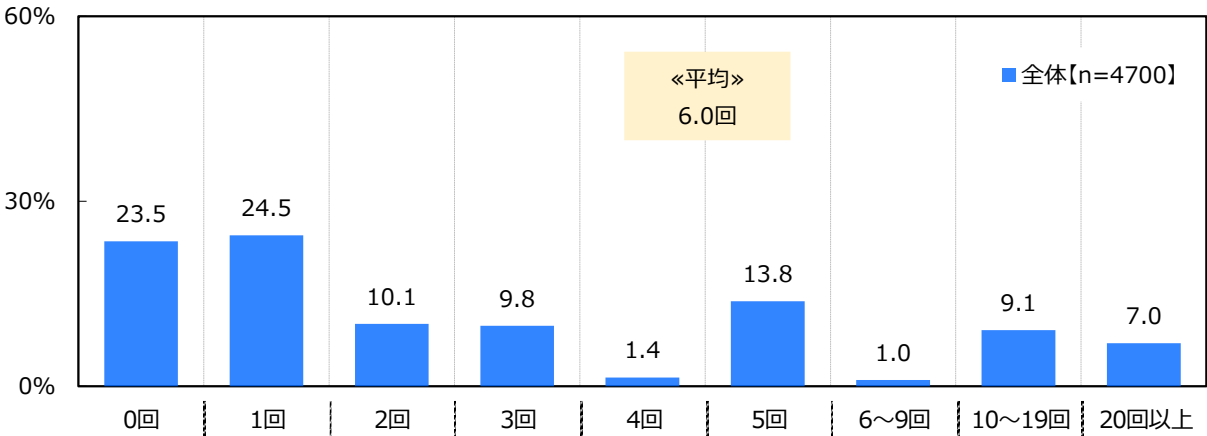
都道府県別にみると、喧嘩をした回数の平均は、奈良県（21.1 回）が最も多くなり、大阪府（19.6 回）、茨城県（18.1 回）、宮崎県（17.9 回）、鹿児島県（17.5 回）が続きました。また、最も少なかったのは大分県で、6.5 回と全体の平均の約半分となりました。

◆今年、夫婦喧嘩・パートナーとの喧嘩をした回数（平均）
各都道府県【n=100】

		回			回			回			回
1位	奈良県	21.1	12位	山口県	14.4	24位	宮城県	11.3	36位	三重県	9.4
			13位	山梨県	13.8	25位	北海道	11.1	37位	兵庫県	9.3
2位	大阪府	19.6	14位	徳島県	13.3		愛知県		38位	青森県	9.1
3位	茨城県	18.1	15位	群馬県	12.9	27位	福島県	11.0	40位	香川県	8.9
4位	宮崎県	17.9	17位	岐阜県	12.4	29位	福岡県	10.6	41位	鳥取県	8.6
5位	鹿児島県	17.5	18位	山形県	12.3	30位	福井県	10.5	42位	埼玉県	8.5
6位	愛媛県	17.4		千葉県		31位	東京都	10.4	43位	長崎県	8.5
7位	広島県	16.8	20位	島根県	12.2	32位	沖縄県	10.3	44位	富山県	7.8
8位	栃木県	16.7	21位	岡山県	12.0	33位	静岡県	9.8	45位	熊本県	7.4
	滋賀県		22位	長野県	11.6	34位	石川県	9.6	46位	佐賀県	7.0
10位	高知県	15.7	23位	岩手県	11.5	35位	秋田県	9.5	47位	神奈川県	6.7
11位	和歌山県	15.6		京都府			新潟県			大分県	6.5

また、配偶者・パートナーに 1 カ月に何回くらい“ごめんね”と言っているか聞いたところ、「0 回」（23.5%）や「1 回」（24.5%）、「2 回」（10.1%）、「5 回」（13.8%）などに回答が分かれ、平均は 6.0 回でした。

◆配偶者・パートナーに1カ月に何回くらい“ごめんね”と言っているか（数値入力形式）



都道府県別にみると、1 カ月に“ごめんね”と言っている回数の平均は、鹿児島県（10.1 回）が最も多くなりました。次いで、奈良県（9.3 回）、滋賀県（9.2 回）となりました。また、最も少なかったのは広島県（2.9 回）でした。今年、夫婦喧嘩・パートナーとの喧嘩をした平均回数で 1 位の奈良県は、“ごめんね”と言っている平均回数では 2 位、5 位の鹿児島県は 1 位となっており、喧嘩が多いながらも謝罪をして仲直りしようと努めている夫婦・パートナーが多いようです。一方で、“ごめんね”と言っている回数の平均が最も少なかった広島県は喧嘩の平均回数では 7 位に挙がりました。広島県では喧嘩後はなかなか素直になれない夫婦・パートナーが少なくないのではないのでしょうか。

◆配偶者・パートナーに1カ月に“ごめんね”と言っている回数（平均）

各都道府県【n=100】

		回			回			回			回
1位	鹿児島県	10.1	12位	東京都	6.8	24位	群馬県	5.8	36位	島根県	4.9
				京都府		25位	大阪府	5.7		福岡県	
2位	奈良県	9.3		熊本県		26位	北海道	5.6	38位	長野県	4.8
3位	滋賀県	9.2	15位	徳島県	6.6		福井県		39位	鳥取県	4.6
4位	和歌山県	8.6	16位	埼玉県	6.5		沖縄県		40位	秋田県	4.5
5位	石川県	8.0	17位	愛媛県	6.4	29位	茨城県	5.5	41位	宮崎県	4.4
6位	宮城県	7.9	18位	栃木県	6.3		岡山県		42位	千葉県	4.2
7位	兵庫県	7.6	19位	岩手県	6.2	31位	高知県	5.4	43位	静岡県	4.1
8位	神奈川県	7.5	20位	山形県	6.1	32位	新潟県	5.3			
	山口県			佐賀県		33位	大分県	5.2	45位	青森県	3.8
10位	愛知県	7.4	22位	福島県	6.0	34位	三重県	5.1	46位	富山県	3.6
11位	山梨県	7.1		岐阜県		35位	長崎県	5.0	47位	広島県	2.9

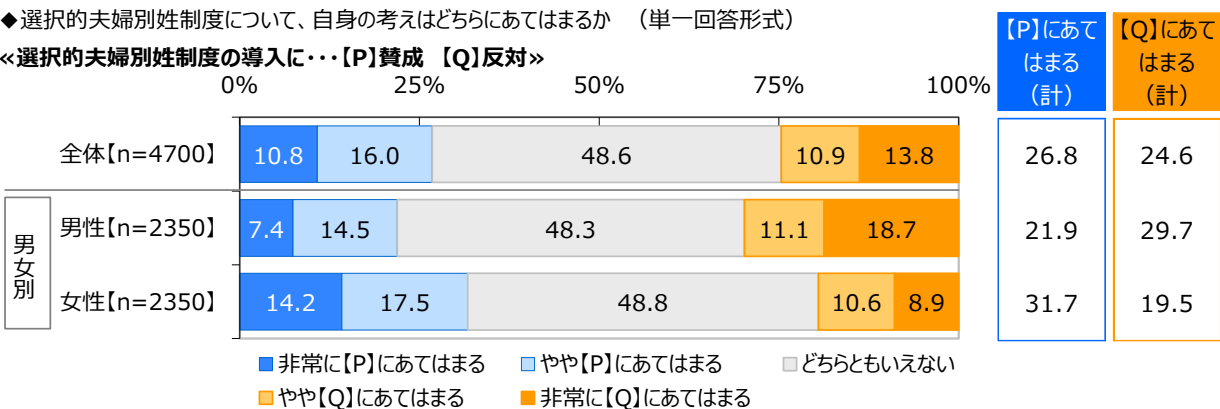
◆選択的夫婦別姓制度について

- ・選択的夫婦別姓制度の導入に対する考え「賛成」は男性 22%、女性 32%「反対」は男性 30%、女性 20%
- ・選択的夫婦別姓制度が導入されたら？「夫婦で別々の名字にしたい」は男性 11%、女性 16%

夫婦で同じ名字にするか、別々の名字にするかを選ぶ制度である選択的夫婦別姓制度について質問しました。

全回答者（4,700 名）に、選択的夫婦別姓制度について、自身の考えはどちらにあてはまるか聞いたところ、「選択的夫婦別姓制度の導入に、賛成か、反対か」では、『賛成』（【P】にあてはまる（計）：「非常に」と「やや」の合計、以下同様）が 26.8%、『反対』（【Q】にあてはまる（計）：「非常に」と「やや」の合計、以下同様）が 24.6%、「どちらともいえない」が 48.6%となりました。

男女別にみると、『賛成』（男性 21.9%、女性 31.7%）は男性と比べて女性のほうが 9.8 ポイント高くなり、『反対』（男性 29.7%、女性 19.5%）は女性と比べて男性のほうが 10.2 ポイント高くなりました。



男女・都道府県別にみると、『賛成』と回答した人の割合が最も高くなったのは、男性では北海道（38.0%）、女性では神奈川県（44.0%）、『反対』と回答した人の割合が最も高くなったのは、男性では徳島県と高知県（いずれも 40.0%）、女性では新潟県（30.0%）でした。

- ◆選択的夫婦別姓制度の導入に対する考え（単一回答形式） ※回答した人の割合が高い順に上位10位までを表示
- 「選択的夫婦別姓制度の導入に…」

賛成						反対											
男性・各都道府県【n=50】			女性・各都道府県【n=50】			男性・各都道府県【n=50】			女性・各都道府県【n=50】								
		%			%			%			%						
1位	北海道	38.0	1位	神奈川県	44.0	1位	徳島県 高知県	40.0	1位	新潟県	30.0						
2位	宮城県	34.0	2位	和歌山県	42.0	3位	栃木県	38.0	2位	茨城県	28.0						
3位	群馬県	32.0	3位	青森県	40.0		埼玉県		4位	北海道		26.0					
4位	神奈川県	30.0		山梨県			富山県			埼玉県							
6位	兵庫県			長野県			長崎県			東京都							
	東京都			高知県		茨城県	福井県										
6位	和歌山県		28.0	8位	宮崎県	38.0	7位	新潟県	36.0	10位	山口県	24.0					
	福岡県	福島県			静岡県			岩手県									
9位	福島県	26.0	8位		京都府			38.0			7位		奈良県	36.0	10位	山形県	24.0
	愛知県				徳島県								広島県			岡山県	
				香川県			佐賀県										

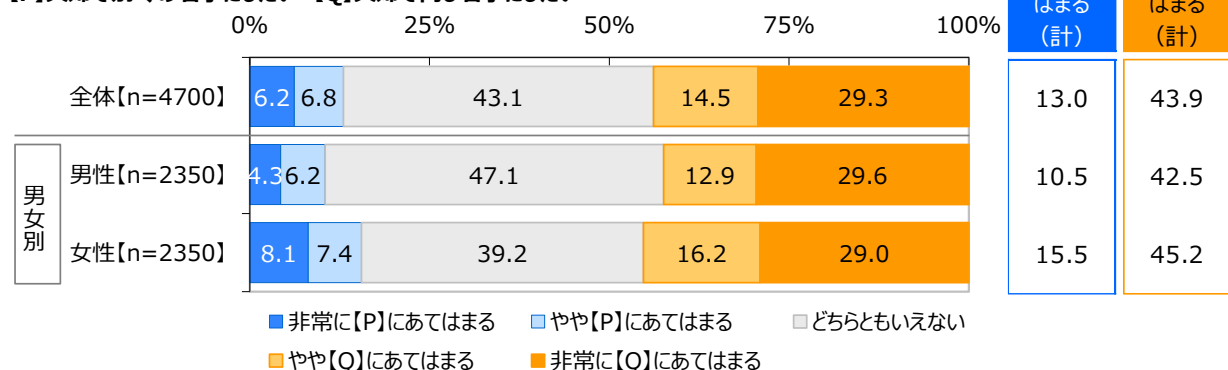
「選択的夫婦別姓制度が導入された場合、夫婦で別々の名字にしたいか、夫婦で同じ名字にしたいか」では、『夫婦で別々の名字にしたい』が 13.0%、『夫婦で同じ名字にしたい』が 43.9%、「どちらともいえない」が 43.1%となりました。選択的夫婦別姓制度が導入されたとしても、現在の夫婦同氏制度のように、どちらかの名字に揃えたいと考える人が多いようです。

男女別にみると、『夫婦で別々の名字にしたい』（男性 10.5%、女性 15.5%）は男性と比べて女性のほうが 5.0 ポイント高くなりました。

◆選択的夫婦別姓制度について、自身の考えはどちらにあてはまるか（単一回答形式）

「選択的夫婦別姓制度が導入された場合…」

【P】夫婦で別々の名字にしたい 【Q】夫婦で同じ名字にしたい



男女・都道府県別にみると、『夫婦で別々の名字にしたい』と回答した人の割合が最も高かったのは、男性では東京都と兵庫県（いずれも 20.0%）、女性では香川県（26.0%）、『夫婦で同じ名字にしたい』と回答した人の割合が最も高かったのは、男性では静岡県と岡山県（いずれも 56.0%）、女性では熊本県（58.0%）でした。

◆選択的夫婦別姓制度の導入に対する考え（単一回答形式） ※回答した人の割合が高い順に上位10位までを表示

「選択的夫婦別姓制度が導入された場合…」

夫婦で別々の名字にしたい						夫婦で同じ名字にしたい					
男性・各都道府県【n=50】			女性・各都道府県【n=50】			男性・各都道府県【n=50】			女性・各都道府県【n=50】		
		%			%			%			%
1位	東京都	20.0	1位	香川県	26.0	1位	静岡県	56.0	1位	熊本県	58.0
	兵庫県						岡山県				
3位	千葉県	18.0	2位	佐賀県	24.0	3位	茨城県	54.0	2位	大分県	56.0
	新潟県			宮崎県			佐賀県		3位	北海道	
	高知県		4位	青森県	22.0	5位	富山県	52.0		京都府	54.0
	福岡県			和歌山県			広島県			長崎県	
7位	宮城県	16.0		島根県		7位	山形県	50.0		青森県	52.0
	福島県		7位	秋田県			新潟県			岩手県	
	栃木県			鳥取県	20.0		福井県			埼玉県	
	滋賀県			徳島県			熊本県			新潟県	
				愛媛県						岐阜県	
				高知県						静岡県	

・夫婦が別々の名字になったら？

「夫婦の関係性に影響があると思う」23%、「親子の関係性に影響があると思う」34%

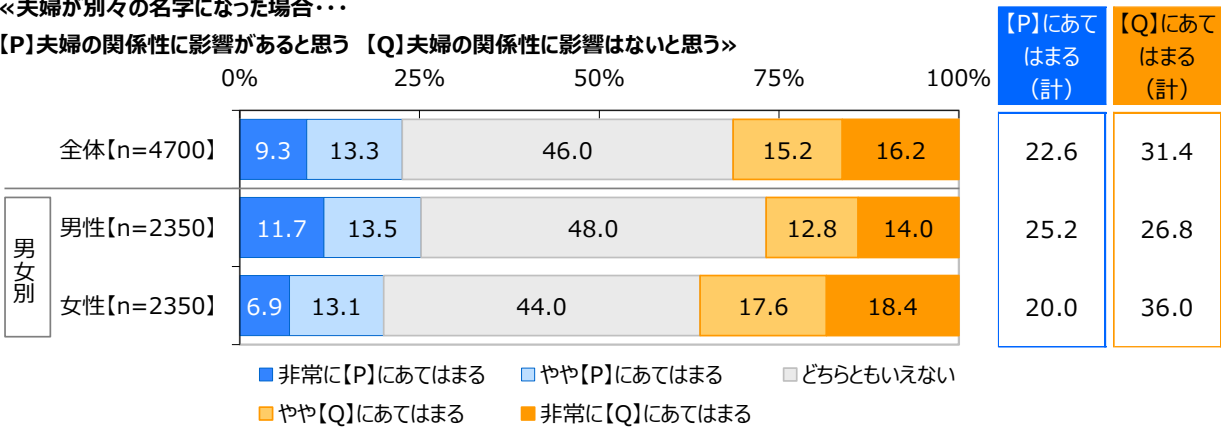
「夫婦が別々の名字になった場合、夫婦の関係性に影響があると思うか、夫婦の関係性に影響はないと思うか」では、『夫婦の関係性に影響があると思う』が 22.6%、『夫婦の関係性に影響はないと思う』が 31.4%、「どちらともいえない」が 46.0%となりました。

男女別にみると、『夫婦の関係性に影響があると思う』（男性 25.2%、女性 20.0%）は女性と比べて男性のほうが 5.2 ポイント高くなり、『夫婦の関係性に影響はないと思う』（男性 26.8%、女性 36.0%）は男性と比べて女性のほうが 9.2 ポイント高くなりました。

◆選択的夫婦別姓制度について、自身の考えはどちらにあてはまるか（単一回答形式）

「夫婦が別々の名字になった場合・・・」

【P】夫婦の関係性に影響があると思う 【Q】夫婦の関係性に影響はないと思う



男女・都道府県別にみると、『夫婦の関係性に影響があると思う』と回答した人の割合が最も高くなったのは、男性では福井県と熊本県（いずれも 42.0%）、女性では山形県と福井県（いずれも 32.0%）、『夫婦の関係性に影響はないと思う』と回答した人の割合が最も高くなったのは、男性では大阪府（40.0%）、女性では滋賀県と高知県（いずれも 50.0%）でした。

◆選択的夫婦別姓制度の導入に対する考え（単一回答形式） ※回答した人の割合が高い順に上位10位までを表示

「夫婦が別々の名字になった場合・・・」

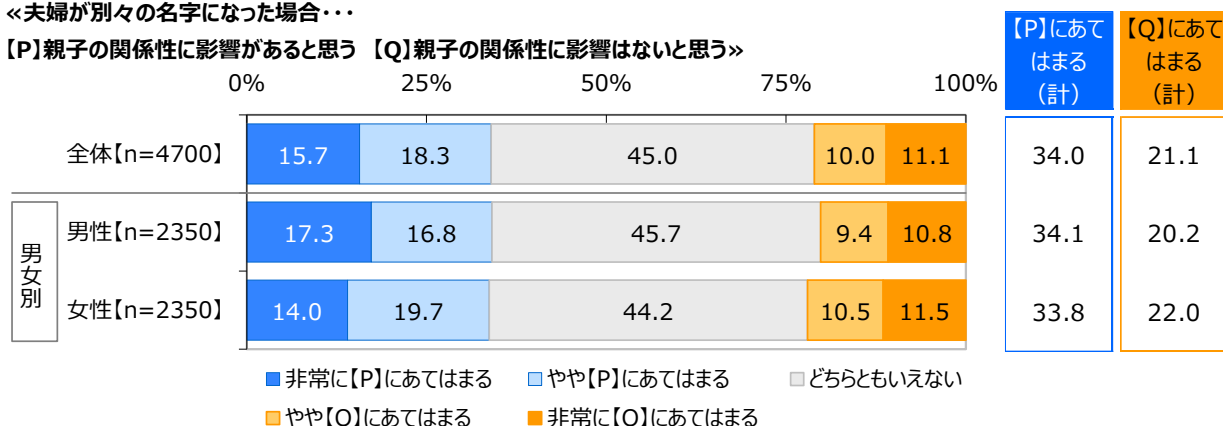
夫婦の関係性に影響があると思う						夫婦の関係性に影響はないと思う						
男性・各都道府県【n=50】			女性・各都道府県【n=50】			男性・各都道府県【n=50】			女性・各都道府県【n=50】			
		%			%			%			%	
1位	福井県 熊本県	42.0	1位	山形県 福井県	32.0	1位	大阪府	40.0	1位	滋賀県 高知県	50.0	
3位	栃木県	38.0	3位	岩手県	30.0	2位	宮崎県	38.0	3位	石川県	48.0	
4位	新潟県	36.0	4位	福島県	26.0	3位	愛知県	36.0		宮崎県		
5位	大分県	34.0		富山県			香川県		5位	東京都	46.0	
6位	千葉県	32.0		山梨県			高知県		6位	青森県	44.0	
	東京都			鳥取県			沖縄県			新潟県		
	神奈川県			島根県		8位	神奈川県	34.0		大阪府		
	岡山県			徳島県		10位	兵庫県	32.0		香川県		
	福岡県			群馬県	24.0		三重県			神奈川県		
	長崎県			埼玉県			広島県			愛知県		
			10位	神奈川県			徳島県			鹿児島県		
				山口県								
				佐賀県								

「夫婦が別々の名字になった場合、親子の関係性に影響があると思うか、親子の関係性に影響はないと思うか」では、『親子の関係性に影響があると思う』が 34.0%、『親子の関係性に影響はないと思う』が 21.1%、「どちらともいえない」が 45.0%となりました。

◆選択的夫婦別姓制度について、自身の考えはどちらにあてはまるか（単一回答形式）

「夫婦が別々の名字になった場合・・・」

【P】親子の関係性に影響があると思う 【Q】親子の関係性に影響はないと思う



男女・都道府県別にみると、『親子の関係性に影響があると思う』と回答した人の割合が最も高くなったのは、男性では福島県・栃木県・熊本県（いずれも 50.0%）、女性では福井県（50.0%）、『親子の関係性に影響はないと思う』と回答した人の割合が最も高くなったのは、男性では長野県（32.0%）、女性では宮崎県（34.0%）でした。

◆選択的夫婦別姓制度の導入に対する考え（単一回答形式） ※回答した人の割合が高い順に上位10位までを表示

「夫婦が別々の名字になった場合・・・」

親子の関係性に影響があると思う						親子の関係性に影響はないと思う					
男性・各都道府県【n=50】			女性・各都道府県【n=50】			男性・各都道府県【n=50】			女性・各都道府県【n=50】		
		%			%			%			%
1位	福島県	50.0	1位	福井県	50.0	1位	長野県	32.0	1位	宮崎県	34.0
	栃木県		2位	岩手県	48.0	2位	大阪府	30.0	2位	福島県	30.0
	熊本県		3位	滋賀県	44.0	3位	秋田県	28.0		東京都	
4位	福岡県	46.0	5位	鳥取県	42.0	6位	愛知県	26.0	5位	大分県	28.0
5位	福井県	44.0		奈良県			岡山県			山形県	
6位	東京都	42.0		徳島県	40.0		神奈川県	24.0		千葉県	26.0
8位	奈良県	40.0	8位	長崎県	40.0	熊本県	8位	愛知県			
	神奈川県			山形県		宮崎県		神奈川県			
	静岡県			島根県		三重県		新潟県			
	鹿児島県			愛媛県		9位	佐賀県		鹿児島県		
				沖縄県							

◆生まれ変わりについて

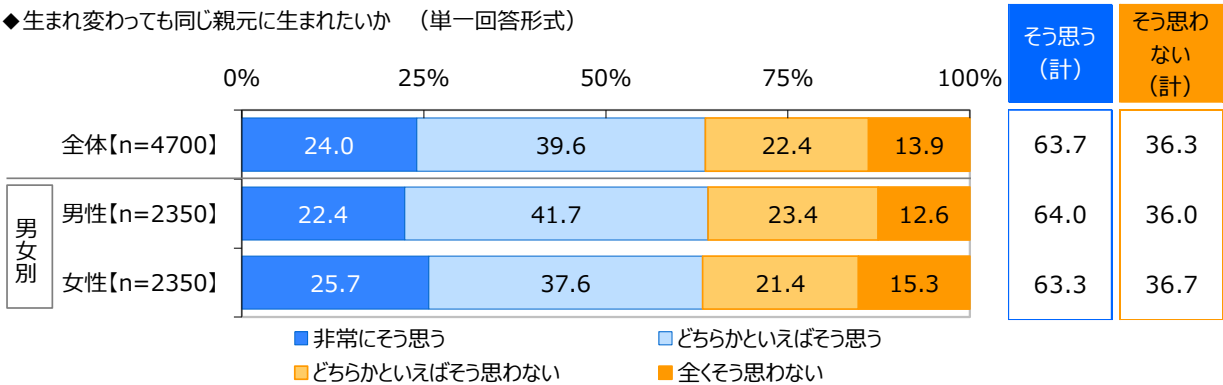
・「生まれ変わっても同じ親元に生まれたい」64%

・「生まれ変わっても今の配偶者・パートナーを選びたい」男性の 67%、女性の 61%

生まれ変わりについて質問しました。

全回答者（4,700 名）に、生まれ変わっても同じ親元に生まれたいか聞いたところ、「非常にそう思う」が 24.0%、「どちらかといえばそう思う」が 39.6%で、合計した『そう思う（計）』は 63.7%となりました。

◆生まれ変わっても同じ親元に生まれたいか（単一回答形式）



男女・都道府県別にみると、生まれ変わっても同じ親元に生まれたい人の割合は、男性では 1 位が香川県（84.0%）、2 位が愛知県（76.0%）、3 位が新潟県・長野県・三重県・奈良県（いずれも 72.0%）、女性では 1 位が奈良県（80.0%）、2 位が福井県・山梨県・大阪府・鳥取県・鹿児島県（いずれも 72.0%）でした。

◆生まれ変わっても同じ親元に生まれたいと思う人の割合（単一回答形式）

男性・各都道府県【n=50】

		%			%			%			%
1位	香川県	84.0	12位	富山県	68.0	22位	静岡県	64.0	36位	栃木県	58.0
2位	愛知県	76.0		岐阜県			和歌山県			群馬県	
3位	新潟県	72.0		長崎県			岡山県			神奈川県	
	長野県			宮崎県			山口県			広島県	
	三重県			沖縄県			熊本県			大分県	
	奈良県			福島県			北海道		41位	鳥取県	56.0
	宮城県		17位	京都府	66.0	29位	茨城県	62.0	43位	徳島県	
	埼玉県			高知県			東京都		45位	岩手県	54.0
7位	埼玉県	70.0		福岡県			島根県			秋田県	
	山梨県		22位	佐賀県		35位	愛媛県			兵庫県	52.0
	大阪府			山形県	64.0		鹿児島県		46位	福井県	50.0
				千葉県			青森県	60.0		滋賀県	

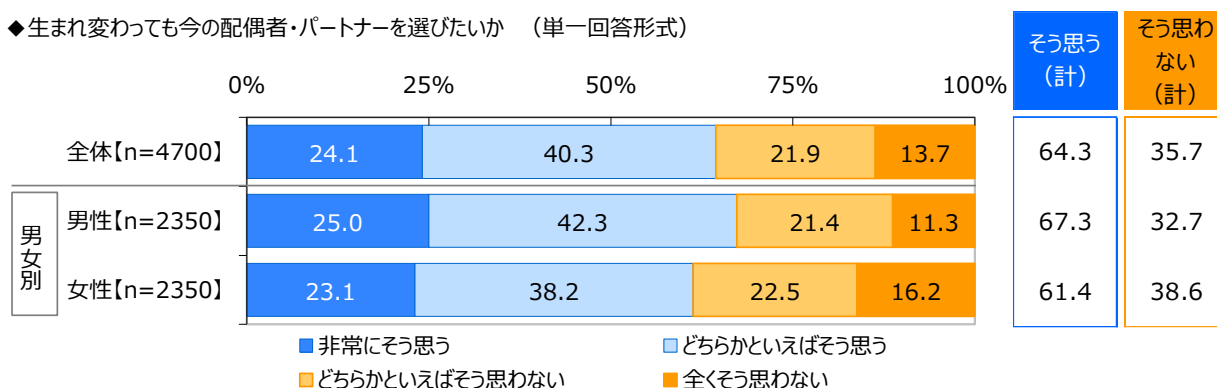
女性・各都道府県【n=50】

		%			%			%			%
1位	奈良県	80.0	11位	愛媛県	68.0	22位	岐阜県	64.0	35位	東京都	58.0
2位	福井県	72.0		高知県			愛知県			三重県	
	山梨県			熊本県			青森県			兵庫県	
	大阪府			埼玉県		26位	宮城県	62.0		山口県	
	鳥取県			新潟県			神奈川県			宮崎県	
	鹿児島県			滋賀県			岡山県			沖縄県	
	鹿儿島県		15位	京都府	66.0		茨城県		42位	富山県	56.0
	岩手県			和歌山県			栃木県		43位	徳島県	54.0
7位	群馬県	70.0		香川県		30位	長野県	60.0	44位	千葉県	52.0
	石川県			佐賀県			長崎県			北海道	
	静岡県		22位	秋田県	64.0		大分県		45位	広島県	50.0
11位	島根県	68.0		福島県		35位	山形県	58.0		福岡県	

生まれ変わっても今の配偶者・パートナーを選びたいか聞いたところ、「非常にそう思う」が 24.1%、「どちらかといえばそう思う」が 40.3%で、合計した『そう思う（計）』は 64.3%となりました。

男女別にみると、生まれ変わっても今の配偶者・パートナーを選びたい人の割合は、男性では 67.3%と、女性（61.4%）と比べて 5 ポイント以上高くなりました。

◆生まれ変わっても今の配偶者・パートナーを選びたいか（単一回答形式）



男女・都道府県別にみると、生まれ変わっても今の配偶者・パートナーを選びたい人の割合は、男性では 1 位が千葉県（78.0%）、2 位が栃木県・東京都・香川県・沖縄県（いずれも 76.0%）、女性では 1 位が岐阜県（76.0%）、2 位が神奈川県（74.0%）、3 位が埼玉県・鹿児島県（いずれも 72.0%）でした。

◆生まれ変わっても今の配偶者・パートナーを選びたいと思う人の割合（単一回答形式）
男性・各都道府県【n=50】

		%			%			%			%
1位	千葉県	78.0	12位	静岡県	70.0	18位	徳島県	68.0	36位	宮城県	64.0
2位	栃木県	76.0		大阪府		25位	秋田県	66.0		新潟県	
	東京都			山形県			愛知県				
	香川県			茨城県			岩手県				
	沖縄県			埼玉県			岐阜県				
6位	青森県	74.0	18位	北海道	68.0	神奈川県	41位	福井県	58.0		
	福島県			石川県		長野県					
	京都府			愛媛県		滋賀県					
	和歌山県			佐賀県		島根県					
	岡山県			熊本県		山口県					
11位	山梨県	72.0		鳥取県		鹿児島県		47位	高知県	52.0	

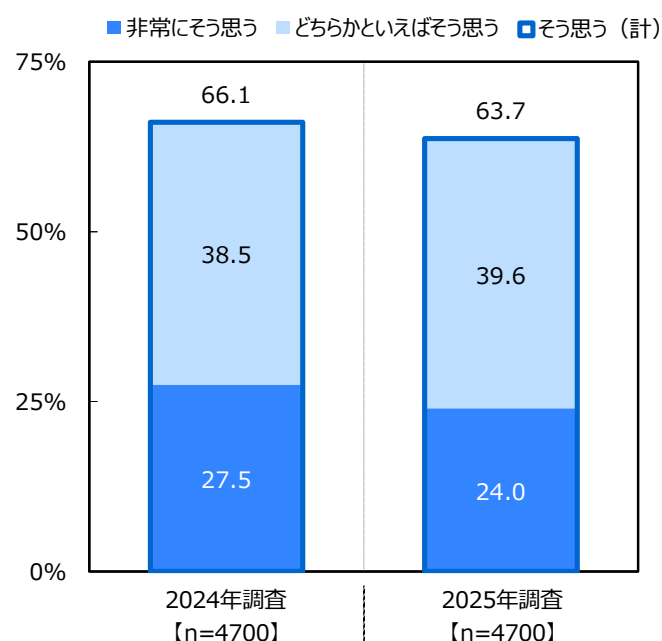
女性・各都道府県【n=50】

		%			%			%			%
1位	岐阜県	76.0	12位	群馬県	66.0	20位	大分県	62.0	34位	滋賀県	56.0
2位	神奈川県	74.0		東京都		25位	宮城県	60.0		和歌山県	
3位	埼玉県	72.0		大阪府			千葉県			愛媛県	
	鹿児島県			香川県			福岡県				
5位	青森県	70.0	17位	北海道	64.0	30位	静岡県	58.0	40位	愛知県	54.0
	岩手県			石川県			茨城県		宮崎県		
	山形県		奈良県	岡山県		富山県	43位	徳島県	52.0		
	京都府		栃木県	長崎県		徳島県		45位		福井県	48.0
10位	兵庫県	68.0	20位	新潟県	62.0	34位	熊本県	56.0	46位	三重県	46.0
	島根県			山梨県			秋田県		47位	三重県	46.0
	山口県			鳥取県			福島県		広島県	44.0	

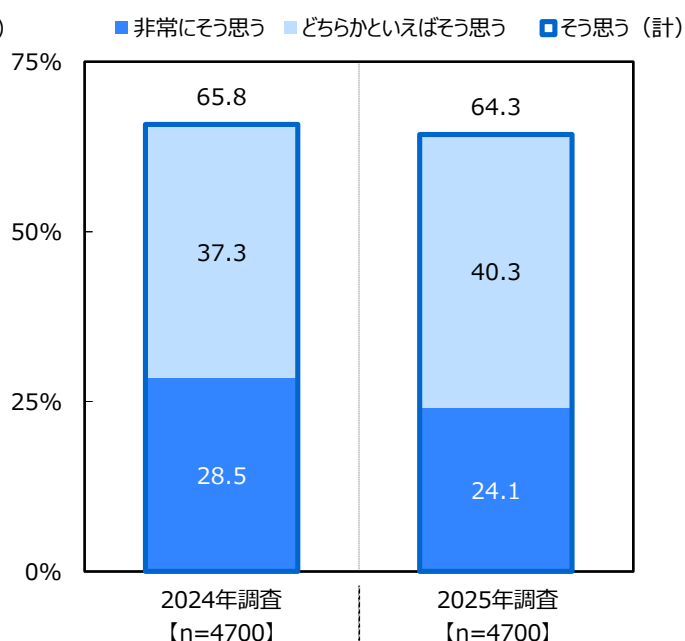
過去の調査結果と比較すると、【生まれ変わっても同じ親元に生まれたいか】では『そう思う（計）』の割合は 2024 年 66.1%→2025 年 63.7%と 2.4 ポイントの下降、「非常にそう思う」の割合は 2024 年 27.5%→2025 年 24.0%と 3.5 ポイントの下降となりました。最近では、“親ガチャ”という言葉が広く知られるようになっていきます。親との関係に悩んでいる人や、もし別の親だったらどのような人生を歩んでいたのかと考える人が増えているのではないのでしょうか。

また、【生まれ変わっても今の配偶者・パートナーを選びたいか】では『そう思う（計）』の割合は 2024 年 65.8%→2025 年 64.3%と 1.5 ポイントの下降、「非常にそう思う」の割合は 2024 年 28.5%→2025 年 24.1%と 4.4 ポイントの下降となりました。

◆生まれ変わっても同じ親元に生まれたいか （単一回答形式）



◆生まれ変わっても今の配偶者・パートナーを選びたいか （単一回答形式）



◆“家族愛”とエンタメ

・家族愛が強いと思う芸能人「杉浦太陽さん」「辻希美さん」夫妻がそろって 1 位に

・家族愛が強いと思うスポーツ選手 TOP3

男性選手「大谷翔平さん」「イチローさん」「長友佑都さん」、女性選手「浜口京子さん」「北斗晶さん」「谷亮子さん」

全回答者（4,700 名）に、“家族愛が強い”というイメージに合うと思う人物について質問しました。

“家族愛が強い”というイメージに合う【芸能人】についてみると、男性芸能人では 1 位「杉浦太陽さん」（463 名）、2 位「ヒロミさん」（238 名）、3 位「木村拓哉さん」（120 名）、女性芸能人では 1 位「辻希美さん」（559 名）、2 位「藤本美貴さん」（190 名）、3 位「北斗晶さん」（102 名）となりました。2025 年に、第 5 子が誕生したことで話題となった杉浦太陽さん&辻希美さん夫妻がそれぞれ 1 位という結果となりました。

前回の調査結果と比較してみると、男性芸能人では「杉浦太陽さん」が昨年 2 位から 1 位に、女性芸能人では「藤本美貴さん」が昨年 3 位から 2 位に上昇しました。

◆“家族愛が強い”というイメージに合うと思う人物（各自由回答形式）

全体【n=4700】 ※上位10位までを表示

2024年調査			2025年調査		
	男性芸能人	名		男性芸能人	名
1位	ヒロミ	344	1位	杉浦太陽	463
2位	杉浦太陽	230	2位	ヒロミ	238
3位	木村拓哉	112	3位	木村拓哉	120
	反町隆史		4位	DAIGO	98
5位	高橋英樹	110	5位	つるの剛士	88
6位	つるの剛士	97	6位	所ジョージ	85
7位	所ジョージ	73	7位	庄司智春	62
8位	庄司智春	72	8位	反町隆史	58
9位	DAIGO	71	9位	三浦友和	51
10位	福山雅治	46	10位	高橋英樹	45
	三浦友和				
	女性芸能人	名		女性芸能人	名
1位	辻希美	404	1位	辻希美	559
2位	北斗晶	180	2位	藤本美貴	190
3位	藤本美貴	159	3位	北斗晶	102
4位	北川景子	78	4位	北川景子	85
5位	松嶋菜々子	74	5位	松本伊代	54
6位	松本伊代	73		松嶋菜々子	
7位	杏	50	7位	工藤静香	52
8位	工藤静香	45	8位	上戸彩	32
9位	上戸彩	41	9位	仲里依紗	27
10位	榎原郁恵	37	10位	佐々木希	21

“家族愛が強い”というイメージに合う【スポーツ選手（引退した人を含む）】についてみると、男性スポーツ選手では「大谷翔平さん」（742名）がダントツとなり、2位「イチローさん」（148名）、3位「長友佑都さん」（116名）と続きました。女性スポーツ選手では1位「浜口京子さん」（141名）、2位「北斗晶さん」（126名）、3位「谷亮子さん」（97名）となりました。

前回の調査結果と比較してみると、女性スポーツ選手では「田中（大谷）真美子さん」が昨年8位から5位に上昇しました。

◆“家族愛が強い”というイメージに合うと思う人物（各自由回答形式）

全体【n=4700】 ※上位10位までを表示

2024年調査			2025年調査		
	男性スポーツ選手（引退した人を含む）	名		男性スポーツ選手（引退した人を含む）	名
1位	大谷翔平	714	1位	大谷翔平	742
2位	長友佑都	184	2位	イチロー	148
3位	イチロー	99	3位	長友佑都	116
4位	阿部一二三	93	4位	佐々木健介	42
5位	ダルビッシュ有	41	5位	ダルビッシュ有	22
6位	西田有志	40	6位	魔裟斗	21
7位	大久保嘉人	37	7位	アニマル浜口	18
8位	佐々木健介	34	8位	田中将大	16
9位	アニマル浜口	27	9位	大久保嘉人	15
10位	三浦知良	25	10位	内田篤人	13

	女性スポーツ選手（引退した人を含む）	名		女性スポーツ選手（引退した人を含む）	名
1位	浜口京子	177	1位	浜口京子	141
2位	阿部詩	126	2位	北斗晶	126
3位	谷亮子	105	3位	谷亮子	97
4位	北斗晶	90	4位	澤穂希	78
5位	古賀紗理那	82	5位	田中（大谷）真美子	69
6位	澤穂希	76	6位	吉田沙保里	38
7位	浅田真央	53	7位	阿部詩	31
8位	田中（大谷）真美子	41	8位	大友愛	26
9位	吉田沙保里	38	9位	古賀紗理那	23
10位	潮田玲子	23	10位	丸山桂里奈	22
	丸山桂里奈				

・家族愛を感じる映画 1 位「ALWAYS 三丁目の夕日」、2 位「ホーム・アローン」「男はつらいよ」
30 代以下では「リメンバー・ミー」が TOP3 にランクイン

最後に、家族愛を感じる映像作品について質問しました。

家族愛を感じる映画を聞いたところ、1 位は「ALWAYS 三丁目の夕日」（91 名）となりました。次いで、2 位「ホーム・アローン」「男はつらいよ」シリーズ（いずれも 51 名）、4 位「そして父になる」（42 名）、5 位「『映画クレヨンしんちゃん』シリーズ」（39 名）となりました。

年代別にみると、60 代では「男はつらいよ」シリーズ（21 名）が 1 位となりました。また、30 代以下ではピクサー映画の「リメンバー・ミー」（20 代 12 名、30 代 12 名）が TOP3 にランクインしました。50 代では第二次世界大戦中のユダヤ系家族を描いた作品「ライフ・イズ・ビューティフル」（10 名）が 3 位に挙がりました。

◆家族愛を感じる映画（自由回答形式）
※全体は上位10位まで、年代別は各上位3位までを表示

	全体【n=4700】	名
1位	ALWAYS 三丁目の夕日	91
2位	ホーム・アローン	51
	『男はつらいよ』シリーズ	
4位	そして父になる	42
5位	『映画クレヨンしんちゃん』シリーズ	39
6位	リメンバー・ミー	38
7位	万引き家族	37
8位	アルマゲドン	36
9位	『劇場版「鬼滅の刃」』シリーズ	31
10位	となりのトトロ	29

	20代【n=940】	名
1位	ALWAYS 三丁目の夕日	15
2位	『映画クレヨンしんちゃん』シリーズ	12
	リメンバー・ミー	

	30代【n=940】	名
1位	ALWAYS 三丁目の夕日	21
2位	『映画クレヨンしんちゃん』シリーズ	13
3位	そして父になる	12
	リメンバー・ミー	

	40代【n=940】	名
1位	ALWAYS 三丁目の夕日	16
2位	ホーム・アローン	14
3位	アルマゲドン	11

	50代【n=940】	名
1位	ALWAYS 三丁目の夕日	20
2位	『男はつらいよ』シリーズ	15
3位	ライフ・イズ・ビューティフル	10

	60代【n=940】	名
1位	『男はつらいよ』シリーズ	21
2位	ALWAYS 三丁目の夕日	19
3位	サウンド・オブ・ミュージック	8
	ホーム・アローン	
	万引き家族	

・家族愛を感じるドラマ「ひとつ屋根の下」がダントツ、「あんぱん」が3位に

次に、家族愛を感じるドラマを聞いたところ、「ひとつ屋根の下」（346名）がダントツとなり、2位「北の国から」（119名）となりました。また、今年度の前期の連続テレビ小説である「あんぱん」（68名）が3位となり、以降、4位「マルモのおきて」（57名）、5位「渡る世間は鬼ばかり」（40名）となりました。

年代別にみると、すべての年代で「ひとつ屋根の下」（20代25名、30代29名、40代142名、50代88名、60代62名）が1位となりました。また、40代以下では「マルモのおきて」（20代13名、30代15名、40代15名）がTOP3に入りました。30代では「大好き!五つ子」（11名）が3位に挙がりました。

◆家族愛を感じるドラマ（自由回答形式）
※全体は上位10位まで、年代別は各上位3位までを表示

全体【n=4700】			名	20代【n=940】			名	30代【n=940】			名
1位	ひとつ屋根の下		346	1位	ひとつ屋根の下		25	1位	ひとつ屋根の下		29
2位	北の国から		119	2位	コウノドリ		22	2位	マルモのおきて		15
3位	あんぱん		68	3位	マルモのおきて		13	3位	大好き!五つ子		11
4位	マルモのおきて		57	40代【n=940】			名	50代【n=940】			名
5位	渡る世間は鬼ばかり		40	1位	ひとつ屋根の下		142	1位	ひとつ屋根の下		88
6位	義母と娘のブルース		34	2位	北の国から		16	2位	北の国から		48
7位	コウノドリ		31	3位	マルモのおきて		15	3位	渡る世間は鬼ばかり		14
8位	1リットルの涙		24								
9位	マイファミリー		21								
10位	ライオンの隠れ家		16								
	大好き!五つ子										

	60代【n=940】	名
1位	ひとつ屋根の下	62
2位	あんぱん	41
3位	北の国から	40

・家族愛を感じるアニメ 1位「サザエさん」、2位「鬼滅の刃」、3位「クレヨンしんちゃん」

60代では「となりのトトロ」が3位

家族愛を感じるアニメを聞いたところ、「サザエさん」（392名）が1位となりました。以降、2位「鬼滅の刃」（221名）、3位「クレヨンしんちゃん」（173名）、4位「SPY×FAMILY」（79名）、5位「ちびまる子ちゃん」（67名）となりました。

年代別にみると、全年代で「鬼滅の刃」（20代36名、30代47名、40代62名、50代38名、60代38名）が2位となりました。現在、劇場版シリーズも公開中の「鬼滅の刃」は、家族愛を感じる作品として全年代から人気のようです。30代以下では「クレヨンしんちゃん」（20代49名、30代53名）が1位、40代以上では「サザエさん」（40代76名、50代111名、60代129名）が1位となりました。また、60代では「となりのトトロ」（21名）が3位となりました。

◆家族愛を感じるアニメ（自由回答形式）

※全体は上位10位まで、年代別は各上位3位までを表示

	全体【n=4700】	名
1位	サザエさん	392
2位	鬼滅の刃	221
3位	クレヨンしんちゃん	173
4位	SPY×FAMILY	79
5位	ちびまる子ちゃん	67
6位	ドラえもん	51
7位	となりのトトロ	48
8位	あたしんち	37
9位	ONE PIECE	36
10位	火垂るの墓	23

	20代【n=940】	名		30代【n=940】	名
1位	クレヨンしんちゃん	49	1位	クレヨンしんちゃん	53
2位	鬼滅の刃	36	2位	鬼滅の刃	47
3位	サザエさん	32	3位	サザエさん	44

	40代【n=940】	名		50代【n=940】	名
1位	サザエさん	76	1位	サザエさん	111
2位	鬼滅の刃	62	2位	鬼滅の刃	38
3位	クレヨンしんちゃん	31	3位	クレヨンしんちゃん	25

	60代【n=940】	名
1位	サザエさん	129
2位	鬼滅の刃	38
3位	となりのトトロ	21

注：本調査レポートの百分率表示は小数点第2位で四捨五入の丸め計算を行っているため、
内訳の計と合計が一致しない場合や、内訳を合計しても100%とならない場合があります。

《調査概要》

- ◆調査タイトル : 家族愛に関する調査 2025
- ◆調査対象 : ネットエイジアリサーチのインターネットモニター会員を母集団とする
20歳～69歳の既婚（事実婚含む）男女
- ◆調査期間 : 2025年9月22日～10月2日
- ◆調査方法 : インターネット調査
- ◆調査地域 : 全国
- ◆有効回答数 : 4,700名（有効回答から、各都道府県で男女・年代が均等になるように抽出）
（内訳）

男性	女性	計
2,350	2,350	4,700

- ◆調査協力会社 : ネットエイジア株式会社

■■会社概要■■

- 会社名 : ジブラルタ生命保険株式会社 : The Gibraltar Life Insurance Co., Ltd.
- 本社所在地 : 〒100-8953 東京都千代田区永田町 2-13-10
- 代表者名 : 代表取締役社長 兼 CEO 蕪木 広義（かぶらぎ ひろよし）
- 営業開始 : 2001年4月3日
- 営業種目 : 個人保険、個人年金保険、団体保険、団体年金保険、再保険



**本ニュースリリースの内容の転載にあたりましては、
「ジブラルタ生命調べ」と付記のうえご使用いただきますよう、お願い申し上げます。**

■本リリースに関するお問い合わせ先

ジブラルタ生命保険株式会社 広報チーム 【Tel】 03-5501-6563